（様式１）

「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」
平成２７年度委託事業完了報告書【総括】

| 都道府県名（推進地域） | 山口県 | 番号 | ３５ |
|---|---|---|---|

| 市町村名（推進地区名） | 協力校名 | 児童生徒数 |
|---|---|---|
| 宇部市【厚南中学校区】 | 宇部市立厚南中学校 | 458 |
| | 宇部市立厚南小学校 | 555 |
| | 宇部市立西宇部小学校 | 332 |
| 宇部市【西岐波中学校区】 | 宇部市立西岐波中学校 | 508 |
| | 宇部市立西岐波小学校 | 624 |
| | 宇部市立常盤小学校 | 455 |

## ○　実践研究の内容

研究主題
「コミュニティ・スクールの機能を活かしたきめ細かい検証改善サイクルの確立と、学校・家庭・地域が連携した学力向上の取組」

１．推進地域における取組

（１）「４つの重点取組事項」の一層の充実

山口県教育委員会では、「４つの重点取組事項」を設定し、県教育委員会と市町育委員会が一体となって、各学校を支援し、県全体の学力向上に取り組んできた。この「４つの重点取組事項」の一層の充実を図るために、本研究では、コミュニティ・スクールにおける学力向上の取組について実践・検証を進め、学校・家庭・地域が一体となったきめ細かな学力向上の取組を推進した。

**山口県教育委員会「４つの重点取組事項」**
・学校の組織的な取組－学校の力を伸ばす－
・指導方法の工夫改善－授業の力を高める－
・学習環境の整備－学習環境を整える－
・学習習慣の確立－学習習慣を身に付ける－

（２）今年度の重点的支援

①　コミュニティ・スクールの機能を活用したきめ細かな検証改善サイクルの推進、充実に向けた支援

本県では４月（全国学力・学習状況調査、山口県「４月確認問題」）と１０月（山口県学力定着状況確認問題）の調査を活用して、年間２回の検証改善サイクルを実施しており、この検証改善サイクルをコミュニティ・スクールの機能を活用して推進するために、以下に示した内容について支援や指導・助言を行った。

ア　調査解答及び回答の早期の集計、結果の分析、分析結果の提供
イ　結果を基にした学力向上に向けた取組内容の例示
ウ　コミュニティ・スクールにおける情報提供の例示
エ　コミュニティ・スクールにおける学力向上の取組と効果についての検証
オ　コミュニティ・スクールにおける学力向上の取組の情報発信

② 各学校の学力向上に向けた取組支援

各学校で進めてきた授業改善などの学力向上に向けた取組を、子どもの発達の段階に応じて、系統的に行うことが大切である。そこで、以下の取組の充実・強化を支援した。

| | |
|---|---|
| ア 小中連携の充実 | ◇ コミュニティ・スクールにおける小中連携の取組支援<br>・小中合同での学校運営協議会の開催を支援し、中学校区で育てたい子ども像などの共通テーマを設定した。<br>・小中連携カリキュラムのひな形を示し、作成について指導助言した。<br>・学校評価の項目の見直しを図り、学力向上に向けた取組を、小中で共通の視点から評価できるようにした。 |
| イ 授業改善 | ◇ 小学校における「授業交換」、中学校における「毎時間の授業評価」の実施<br>・コミュニティ・スクールの機能を活用して、実施状況の評価、検証を行った。<br>・学年、教科の枠を解き、保護者や地域の方が参加する「ユニット型研修」を促進した。<br>・効果的な事例を収集し、全県に周知した。 |
| ウ 補充学習 | ◇ コミュニティ・スクールの機能を活用した補充学習の充実<br>・各学校の状況に応じた工夫 ・学校運営協議会における協力依頼 |

③ 「学力分析支援ツール」の運用や活用の支援

自校で採点し、結果を県独自のデータ処理ツールである「学力分析支援ツール」に入力することで、学校や学級、児童生徒一人ひとりの結果を知ることができる。この運用や活用についての支援は、以下のとおりである。

| | |
|---|---|
| ア 入力、個人票の印刷などの運用支援 | ◇市町教育委員会担当者会議の開催（４月）<br>◇電話による相談対応や訪問による助言（随時） |
| イ 調査結果の分析、成果・課題の共有 | ◇各調査の集計結果の提供（速報：６月、１１月、公表：９月、１月）<br>◇成果と課題の共有、課題解決のための参考事例の提供<br>◇自校の分析結果を説明するための資料のひな形の提供 |
| ウ 個人票の活用 | ◇補充学習につながる活用例の紹介<br>◇保護者会等の活用事例の収集、紹介 |
| エ 授業改善への活用 | ◇定着に課題が残る学習内容を扱う授業例の提供 |

（３）平成２７年度の主な取組

| 月 | 山口県教育員会 | 宇部市教育員会 | 協力校 |
|---|---|---|---|
| 4 | ・全国学力・学習状況調査の実施<br>・４月確認問題の実施<br>・コミュニティ・スクール推進協議会 | | ・運営協議会 |
| 5 | ・活用する力を高める研究協議会<br>・全国学力・学習状況調査、４月確認問題の結果速報提供、成果と課題の共有 | ・協力校連絡協議会 | ・運営協議会 |
| 6 | ・山口県地域教育力日本一研修会 | | ・運営協議会 |
| 7 | ・宇部市教育委員会との協議会 | ・協力校連絡協議会 | ・小中連携合同研修会<br>・運営協議会 |
| 8 | ・全国学力・学習状況調査結果発表、成果と課題の共有<br>・学校運営協議会資料の例示<br>・市町教委学力向上担当者会議<br>・やまぐち地域連携教育研修会 | ・厚南中学校区 小中合同の運営協議会 | |
| 9 | | ・西岐波中学校区 小中合同の運営協議会 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10 | ・学力定着状況確認問題の実施<br>・協力校訪問 | ・中学校区プロジェクト委員会<br>・宇部市学力向上推進プロジェクト委員会<br>・協力校訪問 | |
| 11 | ・授業づくり拠点校研究協議会<br>・学力向上推進フォーラム<br>・協力校訪問 | ・宇部市学力向上研修会<br>・協力校訪問<br>・研究紀要作成 | ・運営協議会<br>・研究紀要作成 |
| 12 | ・学力定着状況確認問題の結果速報の提供<br>・山口県コミュニティ・スクール推進フォーラム | ・宇部市学力向上推進プロジェクト委員会（教科調査部会） | ・移動教育委員会<br>・文部科学省訪問（西宇部小学校） |
| 1 | ・学力定着状況確認問題の結果提供、成果と課題の共有<br>・やまぐちっ子の学力を育む検証・改善委員会<br>・コミュニティ・スクール推進協議会 | ・成果発表<br>・研究紀要の取りまとめ | ・成果発表（西宇部小学校）<br>・運営協議会 |
| 2 | ・義務教育関係指導主事等研修会<br>・市町教委学力向上担当者会議<br>・文部科学省連絡協議会<br>・研究紀要校正 | ・宇部市学力向上推進プロジェクト委員会<br>・コミュニティ・スクール研修会<br>・成果発表 | ・運営協議会<br>・成果発表（西宇部小学校）<br>・報告書提出 |
| 3 | ・報告書提出<br>・研究紀要完成、各市町教委に送付 | ・報告書提出 | |

## ２．推進地区における取組

### （１）宇部市の児童生徒共通の課題

全国学力・学習状況調査などの結果分析から、学力の課題を次の３点と捉えた。

- ◆ 基礎学力の定着が必要であること。
- ◆ 規則正しい生活習慣、家庭学習習慣が必要であること。
- ◆ 読書量を増やす必要があること。

### （２）今年度の主な取組

上記の課題を解決するため、山口県教育委員会が設定した「４つの重点取組事項」を柱として、コミュニティ・スクールの機能を活かした学力向上の取組を推進した。

① 学校の組織的な取組

・ 学校運営協議会による熟議

学校運営協議会において、児童生徒の学力の現状を示し、学力向上の手立てについて熟議したことにより、教職員のみの考察による学力向上への取組を別の角度から見直す機会が増え、地域住民の様々な学校支援活動につながった。さらに、小中合同の学校運営協議会によって、「地域全体でどのように子どもたちを育て見守るか」という意識が高まり、様々な活動の提案がなされた。

・ 学力向上推進リーダー・推進教員の活用

今年度、宇部市には学力向上推進リーダーが３名、学力向上推進教員を４名配置した。協力校に配置した２名の学力向上推進リーダー･推進教員は校内研修に積極的に参加し、各校の研修の活性化を図った。

② 指導方法の工夫改善

・ 児童生徒、保護者、地域住民による授業評価

積極的に授業評価を行い、各教員が授業改善に活用した。

・ 中学校教諭の乗り入れ授業

今年度から、中学校教諭の乗り入れ授業を全小学校で開始した。この乗り入れは、年

間を通して計画的、継続的に実施し、小学生がより専門性の高い指導を受けることや、中学校教諭が進学してくる児童の学習状況を把握することなどが可能となった。

③　学習環境の整備

・　小中連携における学習規律の確立

小中合同の学校運営協議会において、小中共通の学習規律が定めるとともに、小学校で身に付けた学習ルールや、給食や掃除の仕方などを小中で共有することで、９年間の成長を見据えた指導の徹底を図った。

・　補充学習の充実

学校運営協議会での熟議を経て、児童生徒の学力向上に向けた学校支援が実施されており、保護者、学校運営協議会委員、地域住民、卒業生などが放課後や土曜日、夏季休業中、中学校の試験週間などの時間を有効に使った補充学習を支援する取組が定着しつつある。

・　読書活動の推進

宇部市では、今年度から「図書館等支援員」を全小中学校に配置した。これにより、学校図書館の読書環境が向上し、子どもたちの読書量増加につながった。また、主に小学校で地域のグループによる読み聞かせ活動が定期的に実施されており、子どもたちの本に対する興味付けに大きく貢献している。

④　学習習慣の確立

・　家庭学習の充実

学校運営協議会の学力向上に関する部会では、「週末学習プリント」発行作業を支援したり、中学校の試験週間に合わせ小学生に家庭学習を呼びかけたりした。

・　メディアコントロールの実践

小学校では、保護者に「約束づくり」の協力を依頼し、中学校では、試験週間などを機会に「自らメディアコントロールに取り組む」ことを指導するなど、各学校で様々な実践が進んだ。

３．協力校における取組

各中学校区において協議の上、中学校区での重点取組事項を決定した。協力校における重点取組内容は以下のとおりである。（下表：◎学校・学校運営協議会共通の取組、○学校の取組）

| Ⅰ　学校の組織的な取組　～学校体制の充実～ | |
|---|---|
| 学校の取組 | 学校運営協議会の取組 |
| ◎　全国学力・学習状況調査、学力定着確認問題、やまぐち学習支援プログラム評価問題の経年分析及び改善計画の作成 | ◎　学校の学力に関する情報を基にした熟議 |
| ◎　小中連携における共通取組体制の確立 | ◎　小中合同の学校運営協議会による共通取組についての協議 |
| ○　学力向上推進リーダー・教員、指導主事を活用した計画的な校内研修の実施<br>○　小学校での授業交換 | |
| ◎　コミュニティ・スクールにおける学力向上に関する情報提供及び支援体制の充実<br>○　中学校教員による小学校への乗り入れ授業実施 | ◎　学校支援（授業支援）の体制づくり |
| Ⅱ　指導方法の工夫改善　～基礎基本の習得と活用力の向上～ | |

| 学校の取組 | 学校運営協議会の取組 |
|---|---|
| ◎　全教員による授業研究会の実施を通した授業改善の取組（「聴く・つなぐ・もどす」授業、振り返りの実施）<br>◎　児童生徒による授業評価の実施<br>○　新聞を活用した授業づくり | ◎　保護者、地域住民による授業評価の実施<br>◎　授業評価を基にした熟議や提案 |
| **Ⅲ　学習環境の整備　～児童生徒の学習力の向上～** | |
| 学校の取組 | 学校運営協議会の取組 |
| ◎　小中連携における学習規律の確立<br>◎　補充学習の充実（朝学・放課後・長期休業中等）<br>◎　地域人材を活用した学習支援の体制づくり<br>◎　家庭・地域と連携した読書活動の推進（朝の全校一斉読書、ブックトーク等） | ◎　小中合同の学校運営協議会による共通取組についての協議<br>◎　補充学習の支援・協力<br>◎　学校支援ボランティアの周知及び募集 |
| **Ⅳ　学習習慣の確立　～家庭、地域のコミュニティ・スクールへの参画～** | |
| 学校の取組 | 学校運営協議会の取組 |
| ○　家庭学習の手引きの活用<br>◎　児童生徒の状況に応じた家庭学習の提供と「週末学習プリント」実施のシステム化<br>◎　「メディアコントロール」を中心とした児童生徒の生活習慣の確立 | ◎　ボランティアによる「週末学習プリント」の印刷<br>◎　「メディアコントロール」の実施に関する熟議及び具体的な取組 |

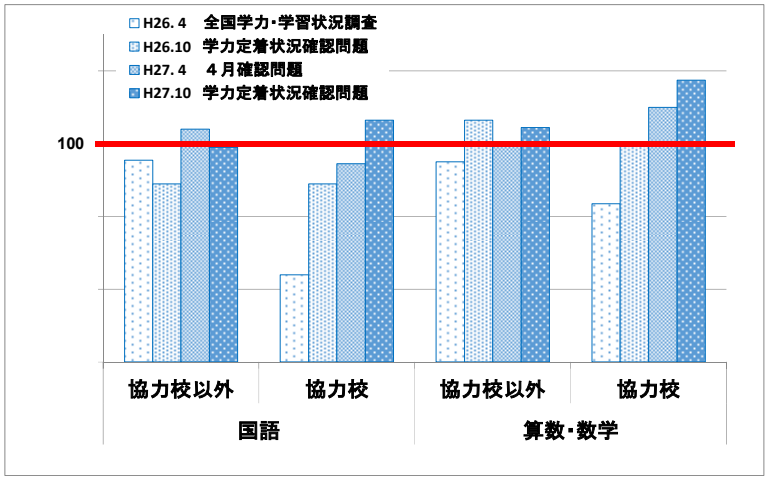
## ○　実践研究の成果

１．協力校における取組の成果

（１）学力状況の成果

右図は、宇部市内の現中学１年の生徒が、この２年間で参加した２回の国語、算数・数学の調査結果の推移を山口県平均値を１００として、示したものである。

**平成27年度中学1年の学力調査結果**

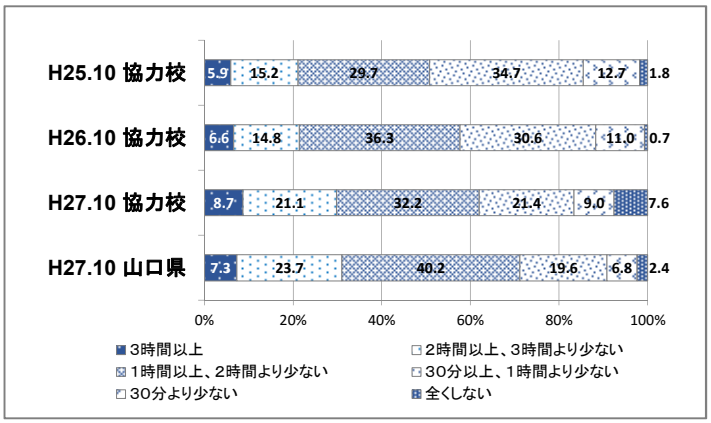



国語、算数ともに、小学６年の４月は県平均との差が大きかったものの、国語は中学１年の１０月に県平均を上回り、算数・数学は小学６年の１０月に県平均と等しくなり、中学１年の４月に県平均を上回った。また、その後も着実な伸びが見られた。これは、小中連携の学力向上の取組や、小中合同のコミュニティ・スクール推進による共通実践等による効果だと考えられる。また、他学年においても、平均正答率の伸びや県平均を上回る結果が見られた。

（2）学習状況の成果

協力校の「平日の家庭学習時間」の調査では、右図のように、２時間以上学習した生徒の割合が県平均とほぼ同様であり、１時間以上学習する生徒の割合も、県平均と比べて低いものの、年々増加している。他学年でも家庭学習時間の伸びが見られ、各学校での様々な取組を通じて、家庭学習やメディアコントロールについての保護者や児童生徒の意識が高まった成果だと考えられる。現在、家庭学習を地域全体で充実させようとする動きが見られ、今後、家庭学習習慣のさらなる改善が期待できる。

**平成27年度中学1年の平日の家庭学習**




２．実践研究全体の成果

（1）コミュニティ・スクールの機能を活用した学力向上の取組

・　学力調査の結果について、「学力分析支援ツール」を活用して、保護者や地域との情報共有が行われ、学校の取組に対する理解や協力が得られるようになった。

・　学力向上に向けて、「学習支援ボランティアなどによる授業支援」「掲示物作成、学習プリントの印刷、自習室の管理などの学習環境整備」「土曜授業や放課後学習会での指導」「子どもの教育に関する学校からの情報発信」などの取組が進んだ。

（2）宇部市教育委員会主導による組織づくり

・　学力向上プロジェクト委員会を宇部市及び各中学校区で立ち上げたり、小中合同の学校運営協議会や小中合同研修会の実施を促進したりするなど、宇部市教育委員会の主導で組織づくりを進めた。このことで、学校ごとに行っていた取組が結び付き、学力向上に向けた小中連携や家庭・地域との連携が進み、他地域のモデルとなる実践につながった。

３．取組の成果の普及

（1）「やまぐちっ子の学力を育む検証・改善委員会」や市町教育委員会学力向上担当者会議にて成果報告を行った。

（2）「やまぐちっ子学力向上だより」や学校訪問等を通じて、コミュニティ・スクールの機能を活用した効果的な実践事例を紹介する。

（3）研究紀要を作成し、県内の各市町教育委員会と全小中学校に配付する。

## ○　今後の課題

◆　コミュニティ・スクールを基盤にした小中連携の取組の推進

・　小中連携の取組を加速させていくため、小中合同の学校運営協議会や、小中合同研修会、中学校教員の乗り入れ授業など、小中連携による効果的な取組やその進め方等を周知するとともに、各市町教育委員会や各学校に対して積極的な支援を行う。

◆　学校規模に応じたコミュニティ・スクールの機能の活用

・　協力校は児童生徒数が約３００人から６５０人程度の学校であり、異なる規模、特に小規模校の状況に応じた、効果的な取組の内容や方法等を学校訪問等を通じて明らかにする。

（様式２）

「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」
平成２７年度委託事業完了報告書
【推進地区】

| 都道府県名（推進地域） | 山口県 | 番号 | ３５ |
|---|---|---|---|

| 市町村名（推進地区名） | 宇部市 |
|---|---|

## ○　推進地区として実施した取組内容

１．研究課題

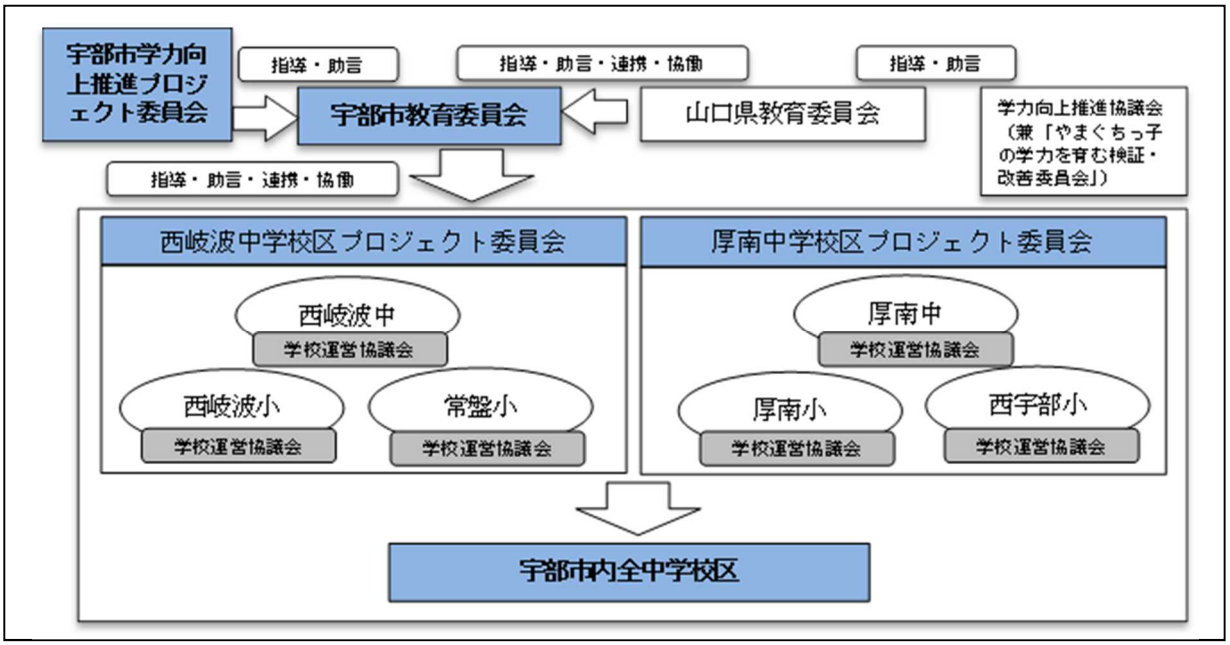
コミュニティ・スクールの機能を活かしたきめ細かい検証改善サイクルの確立と、学校・家庭・地域が連携した学力向上の取組

２．研究課題への取組状況

（１）研究仮説

コミュニティ・スクールの機能を活かした学力向上のための取組を実施すれば、授業の改善と充実及び子どもたちの生活・学習習慣の改善が期待できるため、学力の向上を図ることができる。

（２）研究の組織



（３）平成２７年度の重点取組

①　中学校教諭による小学校への乗り入れ授業

平成２７年度から、中学校教諭の乗り入れ授業を全ての小学校で開始した。この乗り入れ授業は単なる出前授業的なものではなく、年間を通して計画的、継続的に実施するものである。小学生が専門的な教科指導を受けることや、中学校教諭が進学してくる児童の学習状況を把握することなど、小中連携による学力向上のための取組が可能となった。

②　ＩＣＴを活用した教育

学習環境の整備として､宇部市ではＩＣＴを活用した教育に力を入れている。平成２７年度、全小中学校に１クラス分ずつタブレット端末を導入し、各教科で活用した。基礎・基本の定着や英会話などでのコミュニケーションツールとして児童生徒の主体的な学習活動を支えている。

③　学校図書館等支援員

読書活動の充実に向けて、宇部市では、平成２７年度から、「学校図書館等支援員」を全小中学校に配置した。これにより図書室での読書環境が向上し、子どもたちの読書量増加につながっている。

④　「コミュニティ・スクールの機能を活かした学力向上への取組」

前年度の協力校での取組をふまえて、宇部市では、「コミュニティ・スクールの機能を活かした学力向上への取組」を全小中学校に投げかけた。宇部市共通の重点取組を「メディアコントロール」として、学校・家庭・地域が連携した、児童生徒の生活習慣向上への取組や、中学校区での小中連携による共通の取組、各校独自の取組も進めた。

（４）「４つの重点取組事項」に基づいた取組

①　学校の組織的な取組

・　学校運営協議会による熟議

各学校の学校運営協議会で、児童生徒の学力の現状を示し、学力向上の手立てについて熟議したことにより、教職員のみの考察による学力向上への取組を別の角度から見直す機会が増えた。また、この熟議や協議が地域住民の様々な学校支援活動につながった。

さらに、協力校区で開催した小中合同の学校運営協議会によって、「地域全体でどのように子どもたちを育て見守るか」という意識が学校関係者以外にも浸透し、様々な活動の提案がなされた。その中には、本研究のねらいである学力向上に向けた活動も多く、具体的な支援が始まっている。学校の教職員だけでは対応できない児童生徒の抱える課題を解決する道筋が示されている。

・　小中が連携した組織づくり

研究協力校区の厚南中学校区３校は、本研究の組織的な取組の柱として、小中一貫の組織づくりを試みた。学校運営協議会を機能別に４つの部会に分け、それぞれ教職員にも担当させた。さらに、４つの部会と校務分掌を関連

付けることにより、教職員が各自の校務分掌上の課題について学校運営協議会で協議し、課題解決に向けた取組ができるようにした。これによって、合同学校運営協議会などでも共通の部会を開くことができ、学校の必要に応じた様々な支援活動の検討が可能となった。

・　学力向上推進リーダー・推進教員の活用

平成２７年度、宇部市には学力向上推進リーダーが３名、学力向上推進教員が４名配置されており、協力校６校のうち２校が配置校であった。協力校に配置された２名の学力向上推進リーダー・推進教員は、日常の勤務に加えて、協力校の校内研修に指導案作成の段階から積極的に参加し、指導内容や授業方法について指導助言を繰り返した。これにより、協力校での校内研修が活性化した。

②　指導方法の工夫改善

・　積極的な授業公開と授業研修

宇部市では「学び合い」のある授業づくりによる授業公開と授業研究が全市的に展開されている。協力校全てで積極的な授業公開がなされ、多くの教員が互いの授業について意見を出し合い、子どもたちの学びを深めるために必要な改善点を見いだすことができた。教材や指導方法などの工夫にも積極的に取り組み、質の高い授業が提供され始めた。

・　児童生徒、保護者、地域住民による授業評価

日常の授業に児童生徒による授業評価を導入するとともに､授業公開時に、保護者や地域住民による授業評価を行い、それを各教員が授業改善に活用する動きも見られるようになった。学校運営協議会においても授業における指導法や教材についての協議がなされており、コミュニティ・スクールの機能による授業改善は今後さらに進むと思われる。

③　学習環境の整備

・　小中連携における学習規律の確立

小中合同の学校運営協議会で、小中学校で共通の学習規律が定められ、教職員が指導している。小学校時に身に付けた学習のルールや、給食、掃除などの活動などを小中学校で共有することで、児童生徒の９年間の成長を見据えた学習活動の実践が可能となった。

・　補充学習の充実

学校運営協議会での熟議を経て、各協力校で児童生徒の学力向上に向けた学校支援が実施されている。保護者、学校運営協議会委員、地域住民、卒業生などが放課後や土曜日、夏季休業中、中学校のテスト週間などの時間を有効に使いながら、児童生徒の補充学習を支援する取組が定着しつつある。中でも常盤小学校で実施されている「ときわっ子寺子屋」は、休日における児童の家庭学習習慣改善につながるとともに、支援に参加する地域住民同士の交流の場にもなっており、コミュニティ・スクール活用の幅を広げる実践である。

・　読書活動の推進

協力校では、図書室の環境が充実しており、毎日多くの児童生徒が訪れている。これは、学校図書支援員のきめ細かい環境整備作業によるところが大きい。また、主に小学校で地域のグループによる読み聞かせ活動が定期的に実施されており、子どもたちの本に対する興味付けに大きく貢献している。

④　学習習慣の確立

・　家庭学習の充実

各協力校では児童生徒の家庭学習習慣改善のため、「週末学習プリント」などの課題を与え、保護者に点検を含めた協力を依頼している。学校運営協議会の学力向上に関する部会では、この「週末学習プリント」の印刷作業を支援したり、小中合同学校運営協議会の協議により、中学校のテスト週間に合わせて、小学生に家庭学習を呼びかけたりするなどの支援を行っている。これまで各家庭で保護者のみが関わっていた子どもたちの家庭学習を地域全体で充実させようとする動きが出てきている。

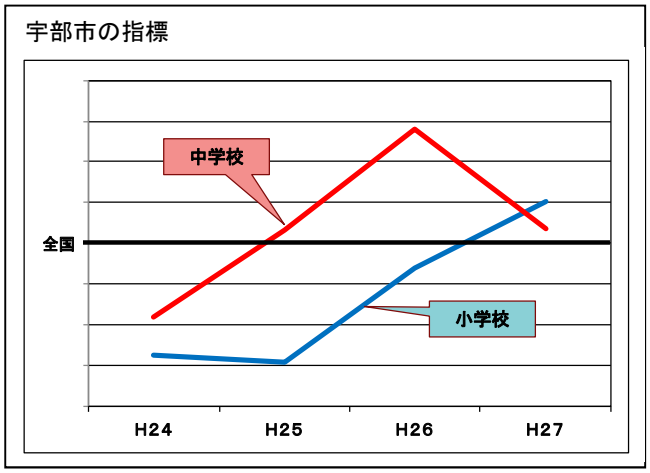
・　メディアコントロールの実践

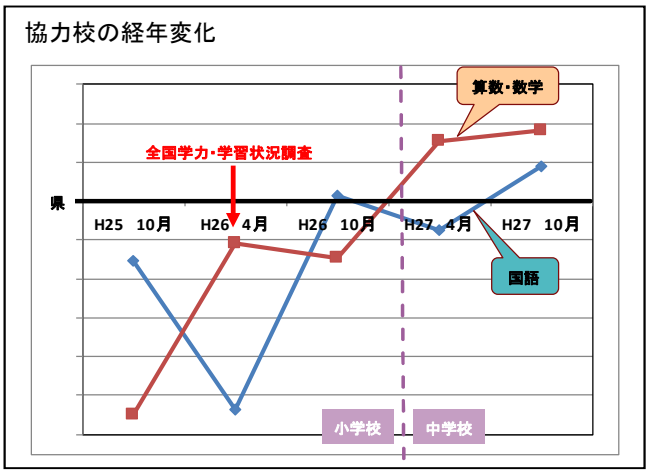
今年度、宇部市共通の実践テーマになった「メディアコントロール」には、協力校の全てが２年間取り組んできた。小学校では、保護者に「約束づくり」の協力を依頼し、中学校では、テスト週間などを機会に「自らメディアコントロールに取り組む」ことを指導するなど、各校で様々な工夫をこらして実践が進んだ。さらに、児童生徒、保護者、地域住民に向けた講演会を実施するなど、学校運営協議会の活動としても広がりを見せている。その結果、子どもたちのメディアコントロールを行おうとする意識が高まっている。

３．実践研究の成果の把握・検証

（１）学力状況の変容

全国学力・学習状況調査における全国平均正答率（国語、算数・数学の総合）を１００とした時の宇部市の指標は、平成２７年度には小学校が全国平均を越えるなど、最近２年間では改善傾向が見られる。



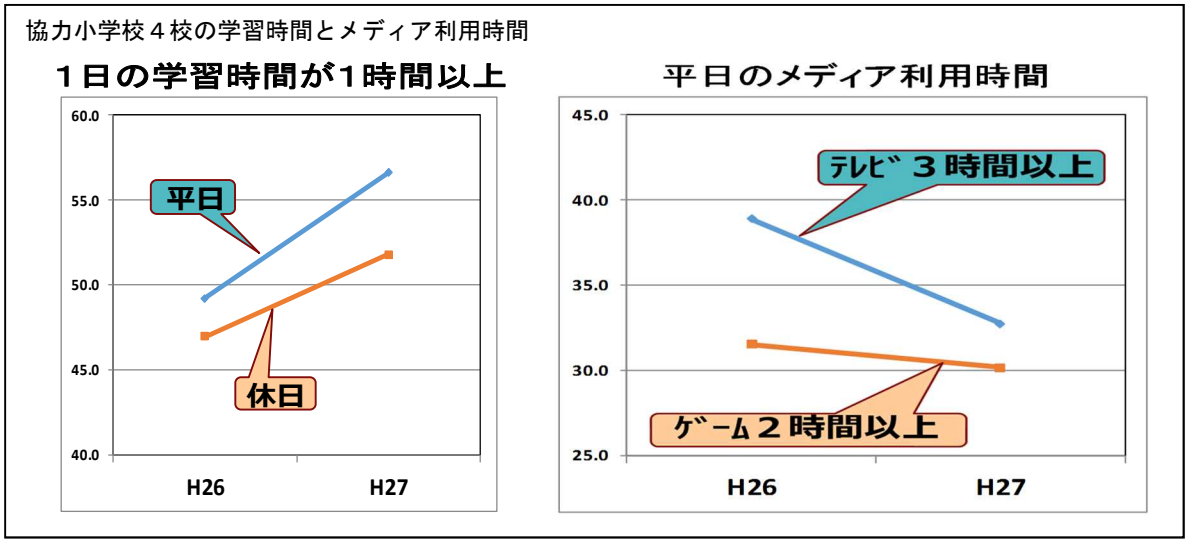



全国学力・学習状況調査（Ａ問題）や山口県学力定着状況確認問題等の平成２５年度から平成２７年度にかけての経年変化（県平均値との比較）を見ると、協力校において数値が上昇している。

これらの結果から、児童生徒の学習習慣改善や学力補充支援などの取組が、成果として表れている。

（２）学習状況の変容

全国学力・学習状況調査における児童質問紙のうち、学習時間とメディア利用時間の項目において、協力校区での値に改善が見られた。学習時間の増加やテレビ視聴時間、ゲームの時間減少は、学力補充やメディアコントロールなど、コミュニティ・スクールの機能を活かした実践の成果と考える。




（３）コミュニティ・スクールの機能を活かした効果的な取組

①　小中一貫の取組

「学校の組織的な取組」では、小中合同の学校運営協議会や小中合同研修会などにより、９年間を貫く教育方針が定められている。これは、小中の教職員の連携も強化し、児童生徒が地域の中で学習を続けていく上でプラスになっている。

②　授業の質の向上

「指導方法や評価の工夫改善」では、積極的な授業公開や、保護者や地域による授業評価の日常化などになり、「授業の質の向上」が図られるようになった。学校の授業公開等による研修は教職員の資質向上のために常に行われていたが、学校運営協議会など外部の評価が加わることで、教師一人ひとりがより客観的に自分の授業を見つめ直す機会となる。それがより質の高い授業実践につながっている。

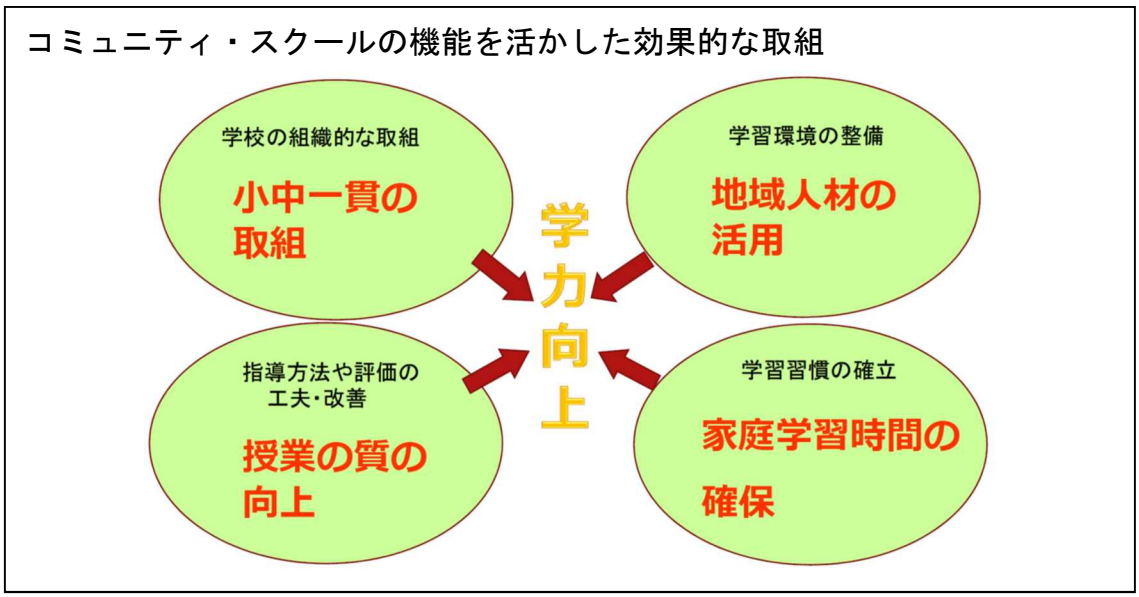
③　地域人材の活用

「学習環境の整備」では、「地域で子どもたちの学びを支える」という意識の高まりから、多くの地域住民が活動を開始した。また、学校運営協議会委員等の紹介で、様々な地域人材が活用されている。またその動きは学校教職員に

も伝わり、校内での授業や教育活動の改善につながっている。

④　家庭学習時間の確保

「学習習慣の確立」では、学校と家庭が連携し、家庭学習の充実や読書活動の支援など、学校・家庭・地域がそれぞれ単独で実行することが困難な取組を三者の連携で実現している。このような連携により、家庭学習時間の確保を目指す必要がある。




４．今後の課題

（１）保護者・地域による授業評価の充実

小中合同の学校運営協議会が開かれ、学校・家庭・地域が連携して児童生徒の学びを支える取組が日常化してきた。しかし、学力向上に必要な授業改善につながる授業評価については、授業参観時や学期末のみの表面的なものが目立つ。また、評価内容が授業者に伝わりにくい現状もある。学力向上のために日常の授業を改善するためには、評価内容を充実させ、評価を教職員に的確に示していくことが重要である。

（２）支援の日常化

市内各校区で保護者や地域による学習支援活動が始まったが、中学校でのテスト週間の支援活動など、一時的な場合がまだ多い。学力向上に向けた支援は、日々の授業や学校での活動を継続的に支えることによって効果を発揮するため、学習支援活動の組織づくりや支援計画づくりが今後の課題である。

（３）成果の「見える化」

各学校で多くの取組が進み始めたが、学力向上に何が効果的であったかなどを、明確にして次に活かすことがまだ十分ではない。学力向上に関する成果が見られた場合、児童生徒、教職員、保護者、地域にできるだけ早く、分かりやすく示すことで、活動がさらに充実するはずである。情報の発信を今まで以上に進めていく必要がある。

（様式３）

「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」
平成２７年度委託事業完了報告書
【協力校】

| 都道府県名（推進地域） | 山口県 | 番号 | ３５ |
|---|---|---|---|

| 協力校名 | 山口県宇部市立西宇部小学校 |
|---|---|

## ○　協力校として実施した取組内容

### １．協力校における学力に関する課題

【現状】

平成２６年度全国学力・学習状況調査において、全国平均を１００とすると、国語Ａ１００、国語Ｂ１１４、算数Ａ１０２、算数Ｂ９８であり、全国平均と概ね同じであった。

６年生は昨年度の５年生時、県独自の４月確認問題において、県平均を１００とすると、国語・算数ともに１０１、１０月の学力定着状況確認問題では、国語１１９、算数１０９であった。１２月の「やまぐち学習支援プログラム」２学期末評価問題においても、概ね同様の結果であった。

５年生は昨年度４年生時、４月確認問題においては、国語１０２、算数１０８、１０月の学力定着状況確認問題においては、国語１０３、算数１１１であり、概ね同じか、若干の伸びが見られた。

このように、学力状況における現状は、１年次の取組が概ね奏効していると考えられる。

学校運営協議会を中心とした外部人材による学力向上の取組は、少しずつ軌道に乗ってきており、例えば同協議会に学力部会を設置するなどの仕組み作りの方向性を定めることができた。

【課題】

１つ目は、４年生である。４年生は昨年度３年生時、４月確認問題と１０月の学力定着状況確認問題の結果を比較すると、国語で９ポイント、算数で２ポイント下がっている。この傾向は、後半期にも引き続いており、全学年中この学年の課題が大きい。

２つ目の課題は、授業力の向上である。学びの共同体理論による協同的な学びを進めている。学習のねらい、内容に応じて、学習課題を立て、板書レベルで授業を具体化することが課題である。授業規律も含めて、教員の力量アップが求められる。

３つ目は、家庭学習時間である。平均時間は、目安時間に概ね達しているものの、平均以下の児童が約半数おり、個人差に応じた指導の工夫が必要である。

４つ目は、読書である。昨年度の４月から１月までの平均読書冊数が十分でなく、家読の時間も十分ではないとのアンケート結果が出ている。

５つ目は、学力向上に当たって、学校運営協議会（及びその部会）、保護者、地域の方々の

意識の高揚、参画を進めるための更なる仕組み作りである。

## ２．協力校としての取組状況

宇部市の４つの視点ごとに取組の内容を整理すると次のとおりである。また、それぞれの取組に関して、課題を解決するために実施した学習状況の改善の取組には①、課題を解決するために実施した生活状況の改善の取組には②と表記している。

○　学校の組織的な取組

- 　校内学力向上委員会の定期的な実施と、その中で学習状況等の的確な分析、データの蓄積、比較等を行うことによる、児童への組織的な対応：①
- 　読書・学力部会での親子読書の推進（厚南中のテスト週間に合わせて実施）：②
- 　サマースクールへの学校運営協議会委員、PTA 常任委員、学習支援ボランティア、中学生の参加：①
- 　小中連携協議会や合同研修会、合同授業研究会への参加：①
- 　学力向上推進リーダーによる授業参観と指導、ミニ研修の実施：①
- 　中学校教員の小学校授業への参加と指導：①

○　指導方法の工夫改善

- 　学習課題の充実と「学びの共同体」の考えに基づいた授業、基礎的な学力や活用力を高める授業づくりの実施：①
- 　学習課題の充実として、基本の課題と発展的な課題を適切に設定するための「学習のねらい」「学習の内容」の吟味：①
- 　保護者や学校運営協議会委員による授業評価による授業改善：①
- 　児童による授業評価の実施：①

☆メディアコントロールチャレンジカード 2015☆

年　組　番　名前

★メディアコントロールにちょうせんしよう！

○メディアとは？

テレビ・ビデオ・DVD・パソコン・けいたい・スマートフォン・コンピュータゲームなどのことをいいます。

○メディアコントロールとは？

メディアにふれる時間を少なくして、友達と外で遊んだり、おうちの人とたくさん話したり、読書をしたりして、西宇部小みんなでいろんなことにチャレンジしてみようというとりくみです。しっかりねむれるようになります。自分でメディアのスイッチが切れるようになります。

★できたところに○をしましょう。

10月13日（火）～10月19日（月）

| めあて | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 夕食中は、テレビなどを消して食べた。 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | |
| 9時（学年）までにねた。<br>10時（上学年）までにねた。 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | |
| 寝る1時間前は、メディアを見なかった。<br>寝る1時間前は、メディアをしなかった。 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | |
| ゲーム（テレビゲーム・コンピュータゲーム・ケータイやスマホゲームなど）は、一切もしなかった。 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | |
| テレビ・DVD・ゲーム・ケータイ・パソコン、まんがなどあわせて1時間までだった。 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | |
| メディアコントロールをして生まれた時間に親子読書をした。 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | |
| ノーメディアデーにした。 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | |
| 合　計 | | | | | | | | |

★ メディアコントロールをして生まれた時間で何をしましたか？

★ 気づいたこと・思ったことをかきましょう。

★ 保護者の方から　※子どものがんばりを評価し、次への励ましの言葉を書いてください。

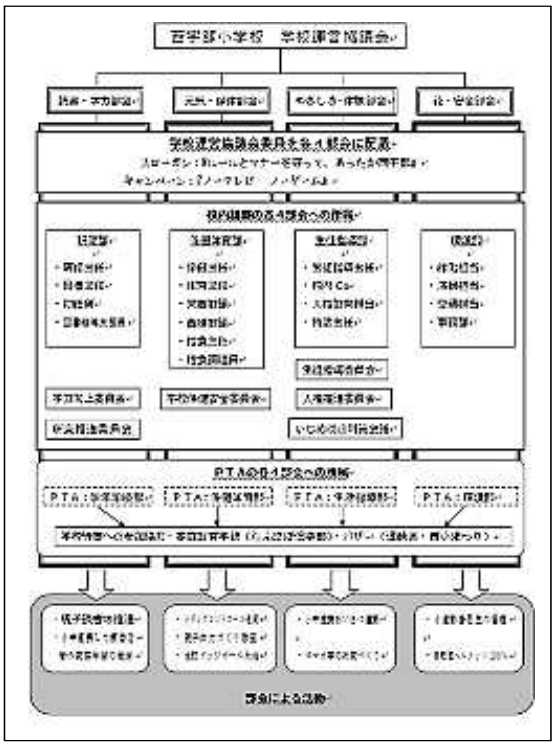
○　学習環境の整備

- 　保護者の協力による学習プリント等の印刷：①
- 　図書館等支援員を活用した読書指導の充実：②
- 　保護者のボランティアによる朝読書時間の読み聞かせ：②
- 　学習支援ボランティアの積極活用：①
- 　高学年を中心に教科担任制の導入：①

○　学習習慣の確立

- 　学力調査等の分析に応じた朝学習と家庭学習との連動及びやまぐち学習支援プログラム等の活用と累積：①
  - 　学校運営協議会において、「家庭学習の充実を図る」ための熟議の実施と、ゲームやスマホ等の扱いを主とした生活習慣の見直し：②
- 　家庭学習の実態調査と家庭学習の手引きの活用：②

また、学校運営協議会の学力関係の部会として、「読書・学力部会」、生活状況改善関係の部会として「元気・保体部会」「やさしさ・体験部会」「花・安全部会」の３つの部会があり、次のような取組を実施した。



① 学力関係

≪読書・学力部会≫

・ 読書量を増やして学力アップというテーマを設定し、家庭での読書を推進、親子読書週間を中学校のテスト週間に合わせて実施（保体部のメディアコントロール週間とタイアップ）

② 生活状況改善関係

≪元気・体力部会≫

・ 経験不足・体験不足を補う活動の仕組みの確立（子ども会とのタイアップ）

・ 本校児童の体力的課題を踏まえ、体育委員会（児童）と共同で、ドッジボール大会の計画

・ 握力の強化に向けて草取り等を実施（花・安全部会の小運動場の草取りとタイアップ）

・ 学校保健安全委員会として、親子体力づくり教室の実施

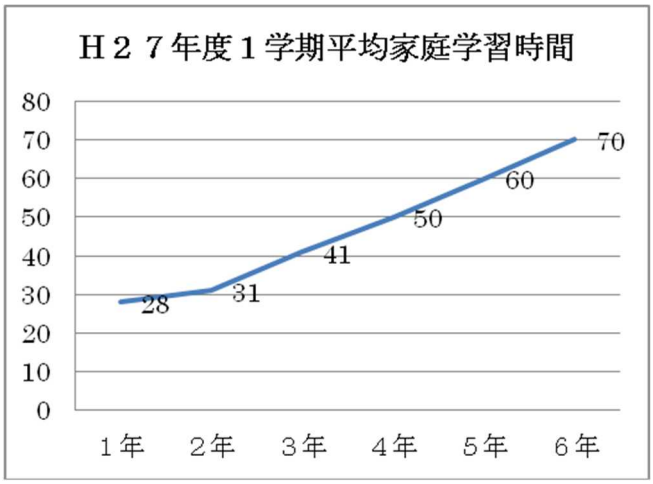
≪やさしさ・体験部会≫

・ 元気なあいさつをひろげる（保体部のすくすくカードとのタイアップ）

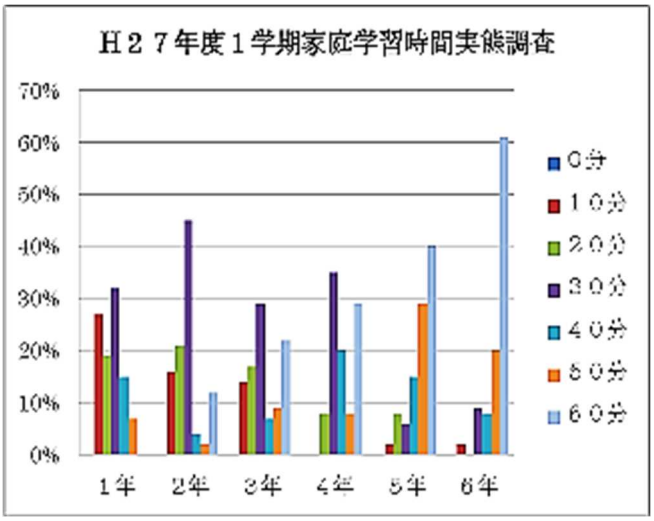
・ スマホ・携帯・ゲーム等の約束や規則について（保体部のメディアコントロール週間とタイアップ）

## ３．取組の成果の把握・検証

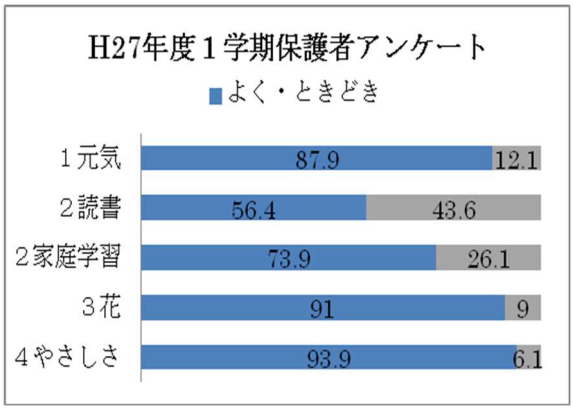
○　朝学習でのやまぐち学習支援プログラムのプリント学習の累積を行うことで、学びの振り返りやスパイラルな取組ができ、学習意欲が向上してきた。校内学力向上委員会において、教職員での共通理解を兼ねた研修を行うことで、各学年の取組の差を埋めることができてきた。




○　児童の学習に関係するプリント等の印刷に関して、保護者の協力を得られたことが学習の累積を行うための環境整備となり、児童の学力定着に大きな効果があった。

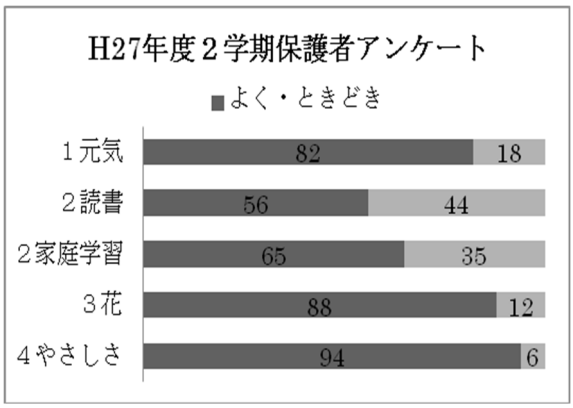



○　家庭学習実態調査の学年の平均時間を学年で比べると、学年に比例した取組ができているが、個人で比較すると、１～４年生は30分という項目が一番多く、５・６年生は60分という項目が一番多い。家庭学習についての、保護者アンケートからは肯定率が 73.9%と以前よりも上昇しているが、中学年の家庭学習への支援が必要である。




○　学校での読書量は増加しているが、家庭での読書の推進が必要であるため、学校運営協議会の読書・学力部会を中心に、家庭を巻き込んだ読書活動を展開することになった。このことは、家庭内での良いコミュニケーションを生んでいる。

○　学校運営協議会の委員、保護者と、授業参観の際の授業評価を継続的に行うことで、授業改善のヒントになり、教師の授業改善につながっている。




○　「メディアコントロール週間」と「ノーメディア、ノーゲーム」の取組、中学校のテスト週間とタイアップさせて実施したことは、家庭内の学習環境づくりにとても効果があったと思われる。保護者からの感想にも、「読書を中心に家庭内の会話が増えたことが大きな喜びになった」とあり、このような感想が更に増えていくように取り組みたい。

## ４．今後の課題

保護者アンケートの比較や、保護者や学校運営協議会委員の授業アンケート結果の分析、児童の朝学習等の授業時間外の効果的な取組の実施等、児童の学力向上に向けて取り組んできた。しかしながら、継続課題もあり、今までの支援体制を一層充実させながら、課題解決に取り組んでいきたい。

○　教育課程の一層の調和的、重点的な編成・実施、行事等の精選
○　学力向上への取組と授業改善、授業研究の一層の一体化と実質化
○　保護者の更なる意識高揚
○　学校運営協議会による取組の活性化
○　家読の推進
○　家庭学習の個々の充実した取組時間の確保
○　個々の力に合わせた自主学習の積極的な取組

（様式３）

「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」
平成２７年度委託事業完了報告書
【協力校】

| 都道府県名（推進地域） | 山口県 | 番号 | ３５ |
|---|---|---|---|

| 協力校名 | 山口県宇部市立西岐波小学校 |
|---|---|

## ○　協力校として実施した取組内容

### １．協力校における学力に関する課題

明るく素直な児童が多いものの、複雑な家庭環境等の影響もあり、学習意欲も低く、学力も低位の状況である。また、いずれの学級においても、発達障害の診断を受けている児童等が在籍しており、個に応じたきめ細かな指導に努めている。全国学力・学習状況調査や「やまぐち学習支援プログラム『確認問題』」の結果からは、各学年で習得すべき基礎的・基本的な学習内容の定着に加え、読み取る力や書く力の向上が課題と考えられる。また、家庭学習の時間の確保と質の向上も、今後の解決すべき課題である。

### ２．協力校としての取組状況

（１）組織的な取組の充実

①　学力向上プランの見直し

全国学力・学習状況調査や、３年生から５年生を対象にした「やまぐち学習支援プログラム『４月確認問題』」の後や１０月実施の３年生から６年生を対象にした「学力定着状況確認問題」の後に、学力向上委員会を開催し、各学年の学力状況や課題を把握・分析し、課題解決に向けた取組を協議し、各学年の学力向上プランの見直しを行った。

②　学力向上に向けた熟議

各校の学校運営協議会で学力分析から現状と課題を共有し、小中合同学校運営協議会において、児童生徒の学力向上に向けた取組について熟議を行った。学校運営協議会委員からは昨年度からの取組で子どもたちの学力が徐々に上がってきていることへの評価とともに、課題を解決するための方策についての意見が出された。

また、夏季休業中には、学力向上に向けた小中合同研修会を実施し、各校の「学力向上プラン」や全国学力・学習状況調査の分析結果を持ち寄り、教科ごとの取組の情報交換や校種間の接続の留意点等について協議も行った。

（２）指導方法の工夫改善

①　スーパーバイザーを招聘しての公開授業研究会の実施

公開授業研究会に向けた指導案の検討を学年ごとに行い、子どもの実態を把握し、課題解決向けた授業を実施し、授業改善を図ることができた。

②　学校運営協議会委員による授業評価の実施及び授業協議会への参加

学校運営協議会委員の公開授業研究会の授業参観により、アンケート形式での授業評価を実施した。また、研究協議会への学校運営協議会委員の参加により、学校の取組について理解を得ることができた。

（３）学習環境の整備

①　学習支援・読書活動の推進

ア　地域人材を活用した学習支援

イ　学校図書館等支援員による学習支援

ウ　読み聞かせ「もこもこの会」による全校一斉読書・ブックトークの実施

（毎週月曜日朝学の時間）

保護者や地域の方による読み聞かせ「もこもこの会」は、毎年５月から毎週月曜日の朝学の時間を利用して実施している。学校図書館のドアの前には、読み聞かせ「もこもこの会」の方が各クラスに入ってブックトークを行われた際の感想･気付きが毎週、メモとして残されている。「子どもたちが意欲的に聞いてくれてうれしかった」「久しぶりの６年生でしたが、静かに､熱心に聞いてくれてよかった｣などのコメントがあり、子どもたちに読み聞かせの活動に対するフィードバックがなされている。

・講談社の「全国訪問キャラバンカー」

講談社の「全国訪問キャラバンカー」を招聘し、低学年でブックトーク等を実施し、様々な本を紹介していただいた。そこで、紹介された本を読み聞かせ「もこもこの会」に何冊か寄贈していただき、展示、貸し出しを行っている。

・学校図書館等支援員による図書館の環境整備

「読書の好きな子どもを育て、豊かな心、表現力を育てたい」という願いのもと読書活動を

推進してきた。そのためには、学校図書館内の環境を整備し、子どもが本を読みに行きたくなるような魅力的な図書館を作ること、子どもが本を読みたくなるようなきっかけをうまく作っていくこと、子どもが本を読む時間を意図的に設定、確保することが大切であると考える。また、国語科等における「並行読書」の実施により、各教科等と読書をリンクさせ、読書内容や学習内容に深まりをもたせるようにした。さらに、思考力・判断力・表現力を高めるために、例えば、自分で選書することやその本の中から必要な情報を収集できるような学校図書館の展示を工夫したり、本から得た知識を伝える活動を仕組んだりした。そうすることで、読書を楽しむことに加えて、学校図書館の本を活用した読書活動を意図的に仕組み、主体的に学ぶ児童の育成の実践を行うことができると考えた。

・読み聞かせ「もこもこの会」のブックトーク等で取り上げられた本の展示・貸出

読み聞かせ「もこもこの会」のブックトーク等で取り上げられた本は、学校図書館等支援員が学校図書館内に展示し、他のクラスで読まれた本も閲覧でき、貸出もできるようになっている。

・教科書に出てくる本の購入・展示・貸出

国語の授業で学ぶ教材文に関連した本を読む「並行読書」を実施するために、「教科書に出てくる本」として学年ごとにコーナーを設置している。また、調べ学習の充実のために、「本がわかる本」のコーナーを設置し、自分の課題に合わせた本の選び方がわかる本を置くことで、国語科だけでなく、生活科や理科、社会科の授業で学ぶ教材文に関連した「並行読書」も行うことができる。

・「今月の誕生日の作家紹介」コーナーの設置

「今月の誕生日の作家」コーナーでは、毎月、１か月間、その月の誕生日の作家を取り上げ、その作家の本をレイアウトしている。

・図書委員のおすすめの本の展示・貸出

児童が互いに読んだ本の魅力を伝える「図書委員会のおすすめの本」のコーナーや「今日は何の日」のコーナーでは、その日にちなんだ本が毎日紹介されている。子どもたちに様々なジャンルの本を読んでもらおうと特設コーナーを設置して取り上げることで、子どもたちは、いろいろな本を手に取るようになり、貸出冊数が増えている。

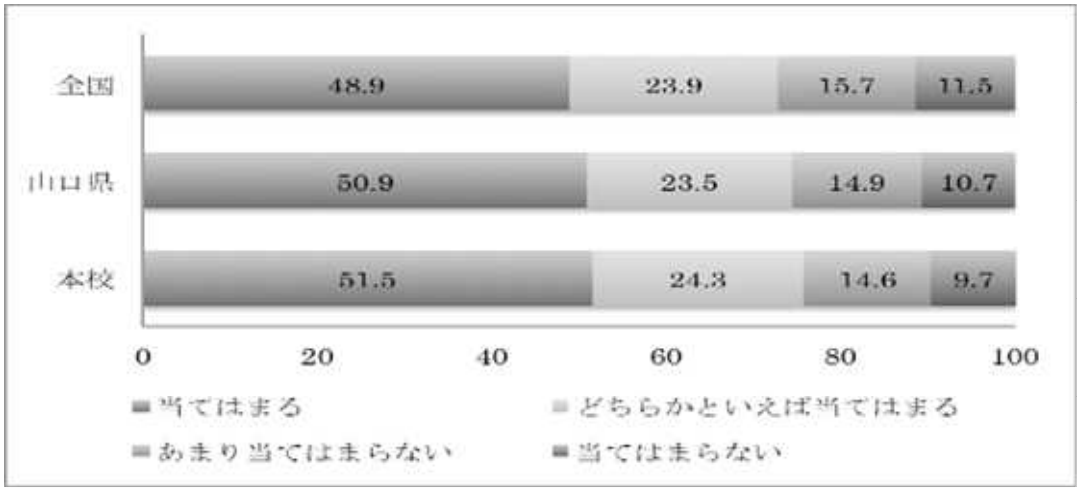
・貸出冊数

| 年度 | 貸出冊数 |
|---|---|
| ２５年度 | ７１３２ |
| ２６年度 | ８２８０ |
| ２７年度(10 月末現在) | ５３６４ |

平成２７年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙「読書は好きですか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合が、全国平均、県平均を上回った。また、「学校の授業時間以外に、普段 1 日当たりどれくらいの時間読書をしますか」の質問に対して、「２時間以上」と回答した児童の割合が全国平均、県平均を上回った。（本校 7.8%、山口県 7.0%、全国 7.5%）

さらには、「昼休みや放課後、学校が休みの日に本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館にどれくらい行きますか」の質問には、「だいたい週に４回以上行く」と回答した児童の割合が山口県､全国平均よりも上回った。（本校 6.8%､山口県 3.6%､全国 3.4%）

・読書は好きですか（平成２７年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙より）




（４）学習習慣の確立

①　朝学、長期休業等を活用した補充学習の実施と内容の充実

朝学の時間や長期休業等を活用し、基礎的・基本的な学習内容の習熟・定着を図るために「やまぐち学習支援プログラム」の「やまぐちっ子学習プリント」を活用して補充学習を行っている。

②　やまぐち学習支援プログラム等を活用した学習プリントの実施

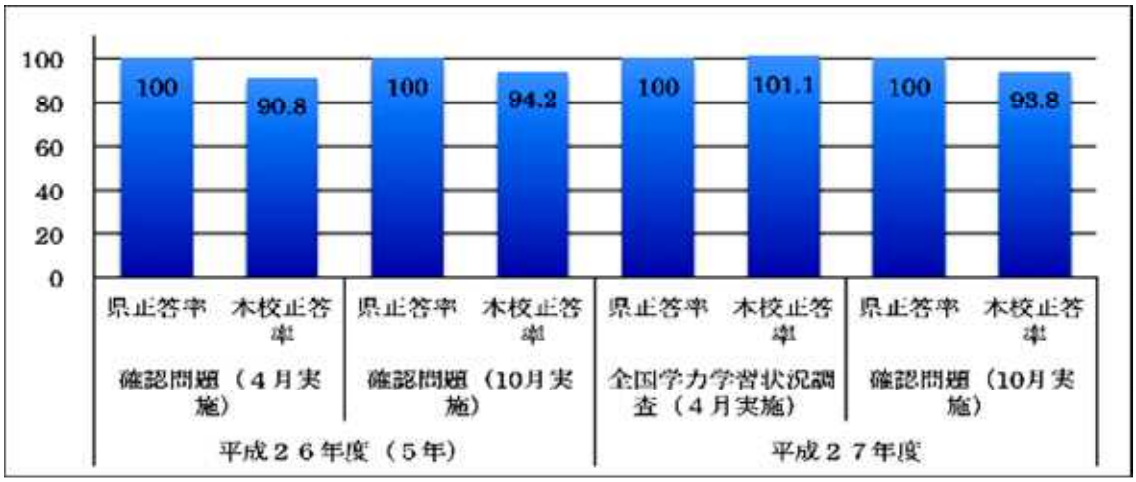
授業の終末部や単元の終末部分では、教員が児童の主眼達成状況を把握したり、次時の授業へのつながりを考えたりするために、児童が自分で本時のめあての達成状況を把握できるように「やまぐち学習支援プログラム」の「やまぐちっ子学習プリント」や「単元末評価問題」、全国学力・学習状況調査の過去の問題や「授業アイディア例」を活用している。

３．取組の成果の把握・検証

（１）取組の成果

下のグラフは、現６年生が５年生の４月に実施した「やまぐち学習支援プログラム『４月確認問題』」、１０月実施の「学力定着状況確認問題」、今年度４月実施の全国学力・学習状況調査、１０月実施の「学力定着状況確認問題」の算数の経年結果（県の平均正答率を１００とした指標）である。

この指標の推移から分かるように、少しずつではあるが、平均正答率を上げることができた。この２年間の様々な取組により、学習内容の定着が徐々に図られている成果だと考える。

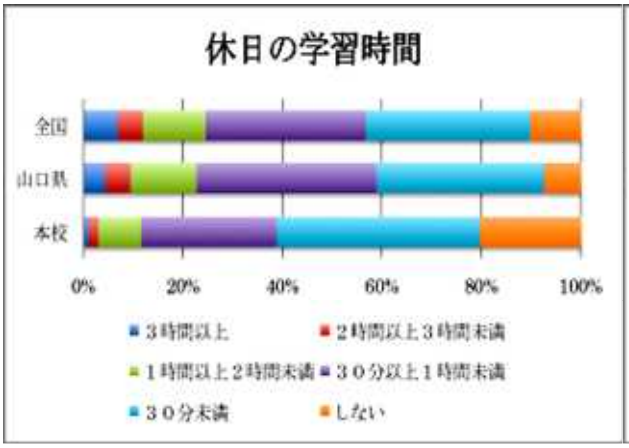


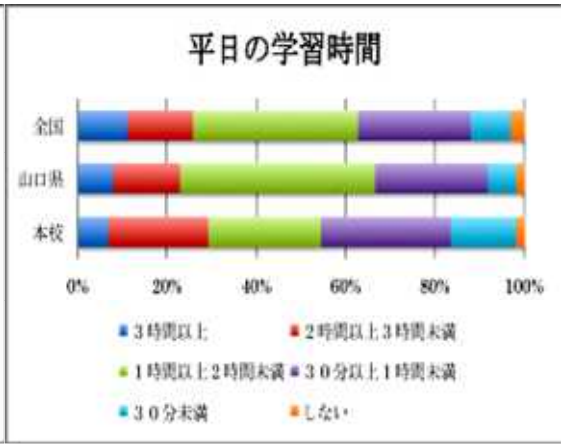

また、前述したとおり、読書活動を推進してきたことにより、読書に対する関心は高まってきている。

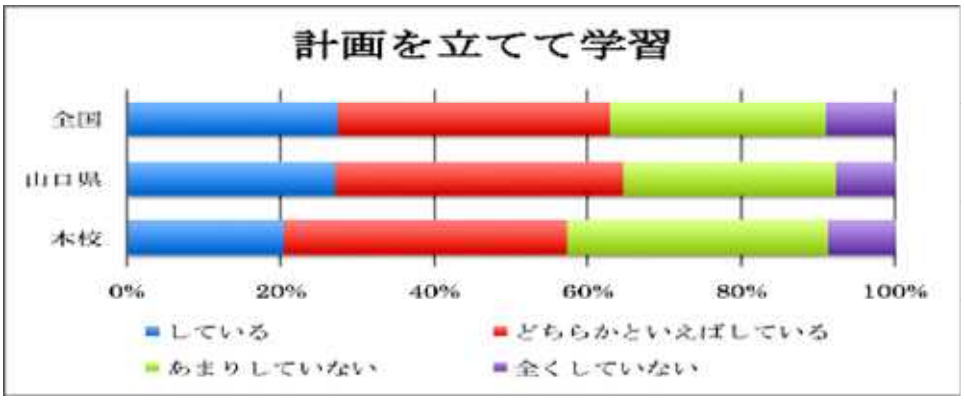
４．今後の課題

（１）次年度以降取り組むべき課題

次のグラフは、休日の学習時間と平日の学習時間の推移である。家庭での平日や休日の学習時間が少ないことがわかる。また、「自分で計画を立てて学習している」という質問に対して、「している」「どちらかといえばしている」と肯定的な回答をした児童の割合は少ない状況にあり、子どもの学習への関心をさらに高めていく必要がある。




（２）課題を解決するための手立て

学校運営協議会の委員からの授業評価や公開授業研究会での研究協議会でいただいた子どもたちの活動への気付きや、小中合同研修会、小学校への中学校教員による乗り入れ授業等の取組によって、さらに情報を共有し、授業改善に向けた研修を継続して行っていく必要がある。また、家庭学習の充実を図るため、西岐波中学校区の３校で作成した「家庭学習の手引き」を見直し、改善していく必要がある。

（様式３）

「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する調査研究（小・中学校）」
平成２７年度委託事業完了報告書
【協力校】

| 都道府県名 | 山口県 | 番号 | ３５ |
|---|---|---|---|

| 協力校名 | 山口県宇部市立厚南小学校 |
|---|---|

## ○　協力校として実施した取組内容

### １．協力校における学力に関する課題

下の表は、平成２６年度の国語と算数における学力の変容（県の平均点を１００とした場合の本校の得点）を示したものである。すべて県作成問題であり、１・２年生は１学期と２学期の学期末評価問題、３～５年生は１学期末評価問題と１０月の学力定着状況確認問題、６年生のみ全国学力・学習状況調査と１０月の学力定着状況確認問題で比較している。

| 【国　語】 | １年生 | ２年生 | ３年生 | ４年生 | ５年生 | ６年生 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| １学期 | １０９ | １０２ | １０８ | ９７ | １０３ | １０１ |
| ２学期 | １０４ | １０３ | １０６ | ９５ | １０７ | １０８ |
| 変容 | －５ | ＋１ | －２ | －２ | ＋４ | ＋７ |

| 【算　数】 | １年生 | ２年生 | ３年生 | ４年生 | ５年生 | ６年生 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| １学期 | １０７ | １０２ | ９８ | ９７ | １０７ | ９９ |
| ２学期 | １０５ | １０３ | １００ | ９６ | １１０ | １０４ |
| 変容 | －２ | ＋１ | ＋２ | －１ | ＋３ | ＋５ |

これを見ると、県平均を超えた学年が増え、特に５・６年生は国語・算数ともに他学年に比べて伸びが大きい。ただ、言語事項の定着や、文章を読み取り、情報や条件を整理してまとめたり、説明したりすることに課題がある。

学習・生活習慣については、平均の家庭学習時間は概ね目標時間に近づいているものの、個人差が大きいことが課題である。また、読書時間もまだ十分ではないことから、メディアコントロールを含め、学校・家庭・地域が連携して生活習慣の改善を図っていくことが必要である。

### ２．協力校としての取組状況

（１）学校の組織的な取組

①　学力向上に向けた熟議

・昨年度末に、学校運営協議会の下部組織として、「学力アップ委員会」「豊かな心アップ委員会」「元気力アップ委員会」「安心・安全アップ委員会」を発足させた。そして、今年度４月には、学校運営協議会委員の他、本校全教職員、家庭代表、地域団体代表も参加した拡大学校運営協議会を開催し、各委員会別熟議を行った。そのとき初めて顔を合わせる人も多く、互いの顔を知り、本音で語り合う良い機会になった。学力アップ委員会では、本校の課題として、持続力や根気がないこと、読み取る力の不足、読書時間の少なさなどが挙げられ、改善に向けてのアイディアとして、長期休業中や放課後の図書室開放時の中・高校生ボランティアや地域人材の活用が出された。

拡大学校運営協議会

７月には２回目の拡大学校運営協議会を実施し、現状の報告やさらなるアイディアについての協議を行った。この会を通して、子どもたちのために家庭・地域と連携することへの教職員の意識が高まったことが何よりの収穫であった。
・やまぐち学習支援プログラム学期末問題実施後、「採点してみて分かった学級ごとの課題」を分析し、学年の共通課題を見つけるとともに、学力向上プランの見直し、加筆を行った。
・各学年で作成した学力向上プランを基に、学年間の系統性に目を向けたプランを作成し、共通理解を図った。

② 小中連携による取組の継続
・年間５回、厚南中学校、西宇部小学校、厚南小学校の教職員が９年間を見通した学習指導、生徒指導のポイント等について協議してきた。
・３校が統一して指導する「３校重点取組事項」を、「あいさつ」「読書」「家庭学習」の３点として取り組んできた。
・８月の全体研修会では、３校の学習指導・研修の様子や生徒指導の実際などについて情報交換を行った。
・１１月には厚南中学校での公開授業研究会に参加し、３校の連携を深めた。
・年間を通して厚南中学校の数学科教員、英語科教員による５・６年生への乗り入れ授業を実施した。

（２）指導方法や授業の工夫改善

① 授業改善に向けた取組
・同学年を基盤として、全教員が授業を公開し、校内研修のテーマ「共に学び合う活動を通して、互いの良さを認め、高め合う子どもの育成」に沿った互いの取組を見せ合ってきた。そのうち１回は、宇部市「学びの創造推進事業」スーパーバイザーである杉山二季先生に指導していただいた。指導案を立てる段階から相談にのっていただき、授業改善に向けての研修が深まった。当日は研究授業を行った学級以外の授業も参観していただいて指導を受け、全校体制での授業改善の方向性を見いだすことができた。
・学力向上推進リーダーが計画的に全学級にＴＴで入り、放課後には「振り返りシート」を基に授業改善に向けて話し合った。同学年で互いの授業の様子を知ることができ、授業研究の１つの場となった。

② 少人数指導の充実
・毎週水曜日の朝学時間の「スキルアップタイム」を継続実施し、学級担任以外の教職員が学級に入り、算数の支援にあたった。
・学年や教科、単元によって、ＴＴや分割指導、教科担任制など形態を工夫し、きめ細やかな指導を行った。

朝学のスキルアップタイム

③ 授業評価の充実
・学期に１回、参観日に保護者、地域住民による授業評価を行ってきた。
・年に２回、学校評価の中でも授業について評価してもらい、その結果を情報発信した。また、学校運営協議会でも説明し、今後の取組について話し合った。

（３）学習環境の整備

① 補充学習の充実
・長期休業中には、平日の午前中に図書室を開放した。「夏休みスキルアップタイム」と称した学習会も実施し、教職員や中・高校生ボランティア、保護者などが学習支援を行った。本を借りに来る親子や、勉強をしに来て息抜きに読書をする子どももおり、「規則正し

夏休みスキルアップタイム

い生活ができるし、安心」と保護者にも好評だった。また、子どもたちからも「中学生や高校生のお兄ちゃん、お姉ちゃんに勉強を教えてもらえると、よくわかってやる気になる」という声が聞かれた。

② 保護者、地域人材を活用した学習支援の充実

・保護者・地域のボランティアによる毎週火・金曜日の朝学時間の読み聞かせを継続して行っている。

・郷土学習には、地域の郷土史研究会の方を学校支援ボランティアに迎え、社会科の授業を行った。

③ 図書室の環境整備

・宇部市独自の取組である図書館等支援員の勤務が、昨年度の週２日から今年度は週４日になり、より充実した図書室経営が行えるようになった。季節や学校行事に合わせてディスプレーが工夫されていること、本について相談にのってもらえる機会が多いということ、ブックトークを行っていることなどから、子どもたちにとって図書室がより魅力的な場所になった。

図書室の子ども新聞

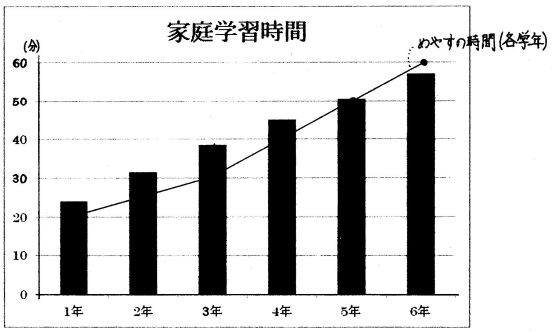
・学校運営協議会で、子どもたちの課題として、「社会の出来事に対する関心の低さ」を挙げたところ、改善策として図書室に「子ども新聞」を置き、貸し出しをすることになった。また、今年度は、ＰＴＡと教育後援会の協力により、選書会を行った。ブックトークの後、５００冊以上の本の中から思い思いに手に取り、本を選ぶことができた。選んだ人数が多かった２５０冊の本が図書室に入り、本を借りに図書室を訪れる子どもが増えた。

（４）学習習慣の確立

① 家庭学習の充実

・学力分析支援ツールを活用した家庭への情報提供を行った。

・年度はじめに「家庭学習の手引き」を配布し、学年に応じためやすの時間や効果的な子どもへの声かけ例等を知らせ、保護者への協力を呼びかけるとともに、年に２回家庭学習時間の調査を行った。その結果、学年ごとの平均時間は、ほぼめやすの時間を上回った。



家庭学習時間調査（１０月）

・３年生以上は、週末ごとに、課題点を考慮した「家庭学習プリント（国・算）」を配布し、答え合わせの後は、いつでも復習や確認ができるようにファイリングしてきた。

・長期休業中には、課題解決を目的としたプリント集を作成し、家庭学習として実施してきた。

② 「メディアコントロール」を中心とした子どもの生活習慣の確立

・ＰＴＡの家庭教育学級対象の情報モラル研修会、５年生児童対象の出前授業、保護者対象の「子どもの健康を考える会」における講演会等を行い、学校だより、保健だよりなどでも情報発信することで、児童や保護者が生活習慣について考える機会となり、家庭で実践し改善を図るためのきっかけづくりをすることができた。

・毎月行っている児童のがんばりカード「元気パワーアップ」の取組の中に「親子でチャレンジ」という項目を設け、保護者の協力の下で子どもの生活習慣の改善を図るよう意識付けを行った。

元気パワーアップ２７

保健だより

保護者の皆様へ

「元気パワーアップ２０１５」を取り組みます。

厚南小学校の重点目標の１つである「元気の創造」のために、今年度も「体力の向上」「望ましい食生活と生活リズムの確立」を取組みます。

「体力の向上」では昼休みに、体育委員会が中心となり、体育集会を開きます。６月には４，５，６年生対象にモップかけ競争を実施しました。様々な動きを取り入れた遊びは、心や体の発育発達やバランス感覚を培うために重要です。

「望ましい食生活と生活リズムの確立」では給食において、子どもたちにいろいろな食材を使った献立を取り入れ、栄養士による食育に関する指導を各学年行っていきます。

そして、子どもたちの元気と育ちの基礎基盤となるより良い生活リズムの確立を目指すため、今年度も「元気パワーアップ2015」を取り組みます。

この取組のポイントは時間を意識することです。

時間を意識することで、からだや脳は活性化します。

早寝早起きを習慣化すること、また、テレビやゲームなど電子メディア機器に接する時間を少なくすることで生まれる時間を「家族とチャレンジ」として、取り組んでみてください。一緒に読書やおしゃべり、運動や散歩、などに当ていただき、親子のふれあいの時間を生み出していただくことを願っています。子どもたちはお家の人に話を聞いてもらったり一緒に活動したりすることが大好きです。そこから安心・安全感が生まれ、情緒も安定すると言われます。生きていくうえで大事な土台ですね。

子どもたちの取組に応援と協力をお願いします。

子どもの健康を考える会（学校保健委員会）に　たくさんご出席いただき、ありがとうございました

元校長、伊藤瑞生先生のお話から
子育てで大切なことは
① 「早寝早起き朝ごはん」
② 「読書・手伝い・外遊び」
③ 「聞いて・教えて・ほめて・叱る」
④ 「礼儀作法・時間厳守・整理整頓」
子育ては世界一大変な仕事であり、子育ては世界一大切な仕事。お子さんの自律をめざしてください。子育ては親育ち。

## ３．取組の成果の把握・検証

### （１）学校の組織的な取組

① 下の表は、国語と算数における学力の変容（県の平均点を１００とした場合の本校の得点）を示したものである。３～５年生は県作成１学期末評価問題と１０月の学力定着状況確認問題、６年生のみ全国学力・学習状況調査と１０月の学力定着状況確認問題で比較している。

| 【国語】 | ３年生 | ４年生 | ５年生 | ６年生 |
|---|---|---|---|---|
| １学期 | ９６ | ９３ | １０６ | ９８ |
| ２学期 | １０３ | ８９ | １００ | ９７ |
| 変容 | ＋７ | －４ | －６ | －１ |

| 【算数】 | ３年生 | ４年生 | ５年生 | ６年生 |
|---|---|---|---|---|
| １学期 | １０３ | １０７ | １０９ | ９９ |
| ２学期 | １０１ | ９７ | ９９ | １０３ |
| 変容 | －１ | －１０ | －１０ | ＋４ |

これを見ると、マイナスになっている学年が多く、大きな伸びは見られなかったものの、各学年とも県平均レベルを維持していると言える。

② 学級ごとに課題となる学力を分析し、学年で共通点を見つけ、学力向上プランを作成→見直し→修正・加筆するという取組が定着してきており、全教職員が系統性を意識した取組が行えるようになってきた。

③ 小中３校の連携については、今年度初めて夏季休業中の小学校の補充学習に中学生が学習支援者として参加したり、中学校の補習に小学校教員が支援者として参加したりしたことにより、一層深まった。児童生徒にとって有意義であったことはもちろんだが、小学校の教員にとっても、「小学校の学習で何が不足していたか」などが分かり、有意義であった。また、中学校教員の乗り入れ授業も定期的に行われたり、合同で「さわやかあいさつ day」と称したあいさつ運動を行ったりしたことにより、小学校から中学校への滑らかな移行が期待できる。

（２）指導方法の工夫改善

①　授業改善に向けた取組により、小グループでの学び合いに肯定的な児童が多く、小グループでの活動によって、安心して自分の考えを述べたり友だちの考えと比べたりすることができるようになった。アンケートによる「分かりやすい楽しい授業づくり」に対する保護者・児童の肯定率は９０％以上と高評価である。ただし、「自分の考えを文章や図・表等にまとめる」ことに苦手意識をもっている児童も２０％以上おり、表現力・活用力の育成が引き続きの課題である。

②　朝学時間の「スキルアップタイム」が個別の支援に効果を上げている。ただ、２０％の児童が、「漢字の読み書きや計算の仕方等の定着」について不十分と感じているので、一層の定着を図る工夫が必要である。

（３）学習環境の整備

①　長期休業中の図書室開放により、図書室が、読書・学習など親子で活字に親しむ場となった。児童にも保護者にも好評なので、今後も続けていきたい。

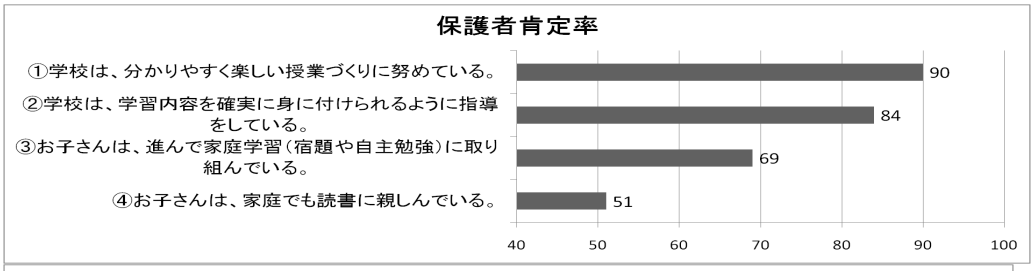
②　図書室の環境整備により、昨年度に比べ図書室を利用する子どもが増え、本の貸し出し冊数が激増した（平成２７年３月：約１万冊　→　平成２８年２月現在：約１万８千冊）。アンケートによると、「家でもよく読書をしている」と答えた児童は昨年度６３％だったのに対し、今年度７０％、保護者も昨年度４４％に対し、今年度５１％となり、少しずつではあるが上昇している。これは、学校のチャレンジ目標に「じっくり読書」を位置付け、様々な取組をしたことにより、読書に対する子どもの意欲が高まった結果と言える。

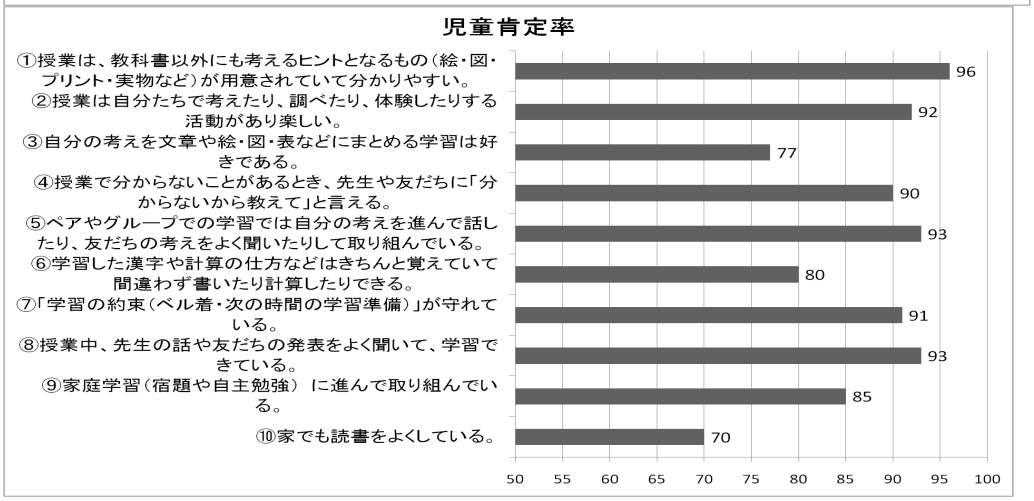
（４）学習習慣の確立

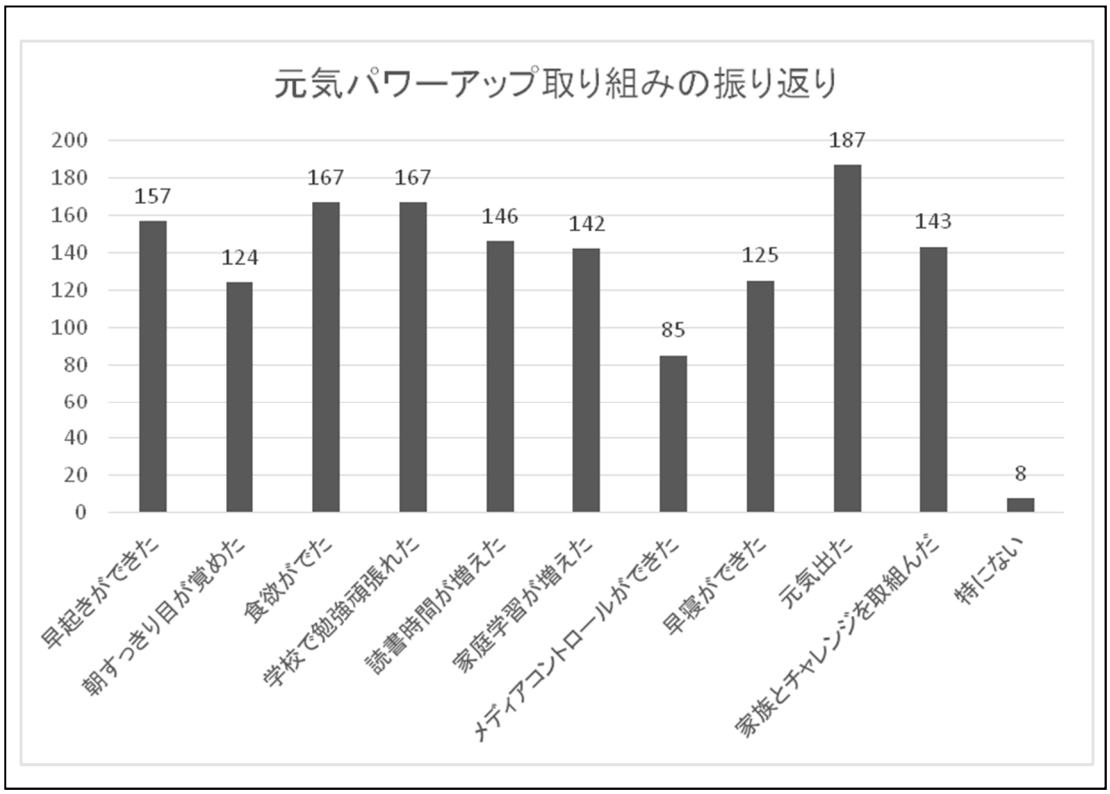
①　家庭学習時間（１日平均）は、長くなってきており、保護者の肯定率も昨年度の５８％から今年度６９％と上昇している。ただ、個人差が大きいことが課題である。

②　「メディアコントロール」を中心とした子どもの生活習慣については、研修会、保健だより、学校だよりによる情報発信や「元気パワーアップ」の取組を推進してきた。「親子でチャレンジ」の取組には、「テレビを消して食事」「掃除片付けタイム」「読書」「早寝早起き」「おしゃべりタイム」などが多かった。また、元気パワーアップの振り返りとしては、「元気が出た」が一番多かったが、半数の児童が「食欲が出た」「学校で勉強を頑張れた」「読書時間が増えた」「家庭学習時間が増えた」と答えている。しかし、上学年になるほど早寝早起きやメディアコントロールが難しいことも浮き彫りになった。今後も継続して啓発していく必要がある。

平成２７年度学校評価（学年末）アンケートより「学力向上の推進」について






## ４．今後の課題

（１）コミュニティ・スクール推進を核にして学力向上を図る。

○　学校運営協議会の組織として発足させた４つの委員会で、課題解決に向けて協議し、具体的な取り組みを進めることができた。今後は、より一層子どもの課題解決のために、効果的な改善策を出し合い、具現化していきたい。

○　学習支援ボランティアについては、人員確保ができるよう発信方法を工夫し、より充実させていく必要がある。

（２）小中３校の連携を深めて学力向上を図る。

○　今後も小中３校の合同研修会を続け、厚南中校区として取り組む重点項目について協議したり、公開授業を参観したりして、９年間を見通した学力向上を図ることが必要である。

○　３校拡大学校運営協議会も継続して進め、４つの委員会ごとに具体的な活動を行っていくことが必要である。

（３）読書・家庭学習習慣の確立を図る。

○　何をするにも健康な身体が基本である。メディアコントロールに加え、食育指導や体力向上に向けての取組も含めた子どもの生活習慣の確立について、改善策を見直し、家庭・地域と連携しながら実践していく必要がある。

○　読書・家庭学習習慣を身に付けさせるために、引き続き場の提供を工夫したり、家庭学習の内容をより充実させたりすることが必要である。

（様式３）

「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」
平成２７年度委託事業完了報告書
【協力校】

| 都道府県名（推進地域） | 山口県 | 番号 | ３５ |
|---|---|---|---|

| 協力校名 | 山口県宇部市立常盤小学校 |
|---|---|

## ○　協力校として実施した取組内容

### １．協力校における学力に関する課題

経年の全国学力・学習状況調査の分析結果から、思考力・判断力・表現力に課題があったため、平成２３年度より「学び合う中で学力向上を目指す授業の研究」を３年計画で行った。また、正答率の低い児童への対策として平成２６年度より「わかる喜びやできる楽しさを実感する授業の研究」を実践してきた。その一環として全学年でやまぐち学習支援プログラムを冊子にし、積極的に活用した結果、４月に行った全国学力・学習状況調査及び４月確認問題と１０月に行った山口県学力定着状況確認問題の結果を比較すると、３～６年の国語において平均正答数が２．７ポイント、算数において３．５ポイント上昇した。しかし、県平均との比較では、３～６年の国語の平均正答数が－０．５ポイント、算数が－０．９ポイントとまだ差がある。

児童質問紙からは、全国及び県と比較して、普段の勉強時間が短く、勉強時間が長い児童には正答率が低い児童が極めて少なかった。普段のテレビゲームの時間も全国及び県と比較して長く、活用力を求める国語Ｂ、算数Ｂにおいて、テレビゲームを長時間行っている児童で、正答率が高い児童はいなかった。

昨年度以降、全学年において、山口県と比較すると、平均正答率の低い児童の割合が多く、正答率の高い児童の割合が少ないという傾向は変わっていない。

これらのことから、本校における学力の課題は以下の３点だととらえた。

◆　基礎・基本的な学習の定着
◆　家庭学習の充実及び学習習慣の確立
◆　低学力層の児童の学力保障

### ２．協力校としての取組状況

（１）課題を解決するために実施した学習状況の改善の取組

①　授業改善のための指導の工夫（共通理解・共通実践事項）

○　学習課題設定の工夫…授業者の教えたい内容を子どもの学びたい内容にする。

○　教科独自の学習方法を育てる工夫…学習方法や学習パターンを子どもが身に付けるよ

うにする

○　学習規律を育てる評価活動の工夫…どの教科・領域にも共通する授業中のルールやマナーを身に付けるようにする。

○　学習の振り返りの工夫…子どもが学習内容や方法、学習規律を再確認したり、授業者が授業改善の契機にしたり、子どもとのラポール形成に役立てたりする。

②　学力向上推進リーダーによる日々の授業改善の指導及び校内授業研究会での講師

③　やまぐち学習支援プログラム（やまぐちっ子学習プリント）一人２冊のファイル化

○　国語、算数１年間分の「やまぐちっ子学習プリント」を印刷しファイルに綴じ、全校児童に持たせ、授業や宿題、土日の家庭学習等で活用する。

○　ＰＴＡのＯＧ・ＯＢの会及び教員によるプリントの印刷とファイル化

○　復習のために前の学年の「やまぐちっ子学習プリント」をいつでも活用できるように、各学年廊下に全てのページごとに取り出せる棚を設置

（２）　課題を解決するために実施した生活状況の改善の取組

①　『ときわっ子寺子屋』（土曜日補充学習）の実施

○　常盤ふれあいセンターで毎週土曜日９時～１１時に実施

○　ＰＴＡのＯＧ・ＯＢの会及びＰＴＡ、地域ボランティア、教員による児童の学習の見守り

②　家庭学習の充実

○　４月はじめに全校児童に「家庭学習の手引き」（低・中・高学年用）を配付

○　全国学力・学習状況調査の結果と質問紙調査の結果を基に、「家庭学習時間と学力調査結果」との相関関係をグラフ化し、家庭・地域に配付

③　メディア講演会の実施

○　６月参観日に高学年児童と保護者を対象にインターネット問題について、「親子で考えるネット問題」と題し、ネットアドバイザーの講演会を開催

○　地域教育ネット（ＫＩＷＡネット）の取組としてメディア講演会「スマホ社会の子どもたち～知っててください！現実と対応」への参加

④　常盤小学校を花で飾ろうの日

○　落ち着いた学習環境づくりのために、毎月第２・４火曜日を「常盤小学校を花で飾ろうの日」として設定し、学校だより等で地域に発信

○　保護者・地域住民が持ち寄った花を子ども達と一緒に生ける。

○　花を生ける花瓶は、地域団体「わくわく常盤」において、子どもたちが製作した竹製の花瓶（竹筒）

⑤　山口県教育委員会発行「食事 運動・遊び 読書９０日元気手帳」の活用

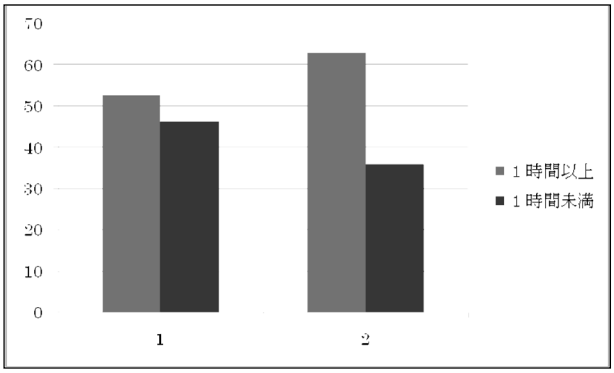
⑥　本校独自の「生活リズムがんばりカード」（寝る時刻、テレビ・ビデオ、ゲーム・スマホの時間）の活用

## ３．取組の成果の把握・検証

（１）平日の勉強時間の推移

「学校の授業時間以外に、ふだん（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」

| | ４月全国学力調査 | １０月学力定着確認 |
|---|---|---|
| １時間以上 | ５２．７％ | ６３％ |
| １時間未満 | ４６．２％ | ３６％ |



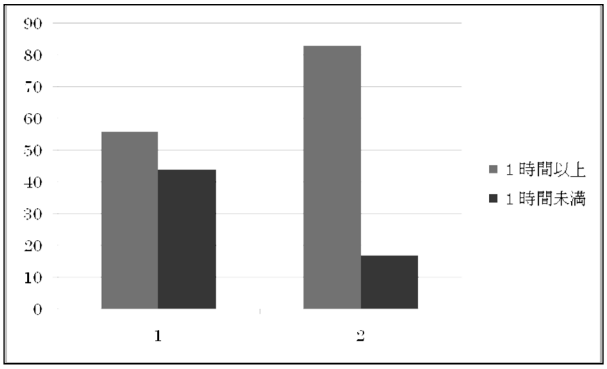

横軸１：４月全国学力・学習状況調査質問紙

横軸２：１０月山口県学力定着状況調査質問紙

（２）休日の勉強時間の推移

「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」

| | ４月全国学力調査 | １０月学力定着確認 |
|---|---|---|
| １時間以上 | ５６％ | ８３％ |
| １時間未満 | ４４％ | １７％ |




横軸１：４月全国学力・学習状況調査質問紙

横軸２：１０月山口県学力定着状況調査質問紙

○　グラフ・表にあるように、家庭学習に取り組む時間の伸びが見られた。このことは、『家庭学習の手引き』（低・中・高学年用）の全校配付、『ときわっ子寺子屋』（土曜日補充学習）の実施及び『やまぐち学習支援プログラム（やまぐちっ子学習プリント）』一人２冊のファイル化等などの実施により、子ども達自身や保護者に家庭学習への意識が高まったことも一因だと考える。

## ４．今後の課題

◆　家庭学習及び学習習慣の定着づくりに向けて、さらに取組を充実していく必要がある。

　例えば、中学校の試験期間に合わせて、全校一斉の家庭学習キャンペーンなどの取組を組織的に実施していくことも考えられる。

◆　取組と結果が結び付くように授業改善を主として『やまぐちっ子学習プリント』の活用方法や、家庭学習支援の取組を改善し、組織的に取り組む。

　例えば、一人２冊のファイルの内容を子ども達や学級担任が使いやすい形式に修正していくとともに社会・理科の冊子を作ることなどが考えられる。

◆　低学力層の児童への学力保障を充実するために、授業での個別指導等の取組をさらに充実させる。

　例えば、教科担任制のさらなる推進や、少人数による指導等、低学力層の学力保障に向けた組織的な取組を充実させることが考えられる。

◆　中学校区が一体となってさらなる学力向上に取り組み、小中連携ならびに小小連携を深め、推進していく。

　例えば、小中共通取組に加え、校務分掌の共通化など、小中９年間を通した意図的、計画的な取組を組織的に進める。

◆　学校・家庭・地域が総がかりで学力向上に取り組む機運づくりをさらに進める。

（様式３）

「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」
平成２７年度委託事業完了報告書
【協力校】

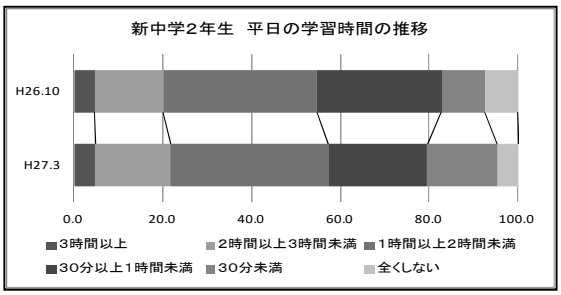
| 都道府県名（推進地域） | 山口県（宇部市） | 番号 | ３５ |
|---|---|---|---|

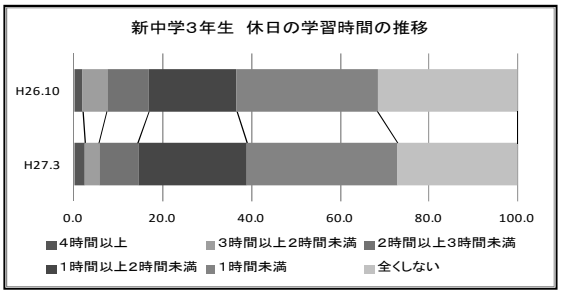
| 協力校名 | 山口県宇部市立西岐波中学校 |
|---|---|

## ○　協力校として実施した取組内容

１．協力校における学力に関する課題

全国学力・学習状況調査において、平成１９年度の調査開始以来、全国平均、県平均を大きく下回る状況が続いている。これまでも、「学び合い」のある授業づくりを推進して授業改善や学力向上のための取組を行っているが、全国平均や県平均との差に変化はなく、大きな改善が見られない。基礎的・基本的事項が、十分定着していないため、授業内容の理解が浅く、授業中に集中を欠く生徒が多数おり、個別の支援が必要な状況も見られる。また、学力調査では、無回答の割合が高く、粘り強く問題に取り組む姿勢に欠けるという傾向があり、「文章を読み取る力」「書く力」「話す力」が不足し、困難なことに出合うとすぐにあきらめてしまうという課題が見られる。



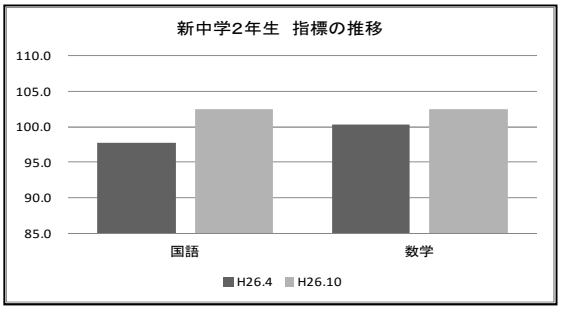

さらに、学習状況調査の結果からも家庭学習の時間が短い傾向が見られ、全市的な取組で山口県が作成した「やまぐち学習支援プログラム」を活用した週末課題への取組を通して、学習習慣の定着を図ることも課題の一つである。

これらの課題を解決し、学力向上を図るためには、授業改善によって、主体的に学びに取り組む生徒を育成するとともに、学びの質を高めることによって、毎時間の授業において確実に学習内容を定着させ、生徒たちの学びを確かなものにしていく必要がある。

同時に、家庭学習等の学習習慣を身に付けさせることによって、生徒の学びの成果を実感させ、それを価値付けることで、自信と自己肯定感をもたせていく必要もある。

平成２６年度の取組によって、家庭学習の時間や学力の向上（基礎的・基本的な事項の定着）に改善の兆しが見える。家庭学習時間は、新２・３年生のどちらにおいても、月曜日か

ら金曜日の平日、土曜日、日曜日などの休日の学習時間がやや長くなり、全くしないという生徒の割合が減少した。




学力の向上では、山口県学力定着状況確認問題の県平均との比較において、新２年生では伸びが見られた。しかしながら、全国学力・学習状況調査の結果から、家庭学習時間は全国、山口県と比較して短く、学力では新３年生において県平均より低い状態が続いている。

## ２．協力校としての取組状況

### （１）学校の組織的な取組

ア　地域協育ネット推進協議会の取組

西岐波中学校区における３校の学校運営協議会を中心に、地域協育ネット推進協議会（ＫＩＷＡネット）を立ち上げ、その中で次のことを進めていくことを確認した。

・西岐波中学校区の子どもたちの教育のあり方に関すること。
・西岐波中学校区の協育ネットのあり方に関すること。

平成２７年度のＫＩＷＡネットの取組では、本中学校区の児童生徒の生活習慣の見直しに向けたメディア講演会を本中学校区の保護者や地域住民を対象に実施した。

参加された保護者や地域住民からは「スマホやゲーム機の使い方による身体への影響の大きさをデータから聞いたことで、子どもへの持たせ方を考えるきっかけとなった」というような感想が多く聞かれた。

イ　学力向上に向けた熟議

学校運営協議会では、学力分析から現状と課題とを共有した上で、小中合同学校運営協議会を実施し、児童生徒の学力向上に向けた取組について熟議を行った。学校運営協議会委員からは、昨年度からの取組で子どもたちの学力が徐々に上がってきていることへの評価とともに、課題を解決するための方策についての意見が出された。

また、夏休みには小中合同研修会を実施し、各校の「学力向上プランや全国学力・学習状況調査の分析結果」を持ち寄り、教科ごとの取組の情報交換や校種間の接続の留意点等について協議も行った。

### （２）指導方法の工夫改善

ア　授業改善に向けた取組

生徒の現状から以下の点を課題と捉え、課題解決をめざした。

◆　基礎的・基本的な事項の定着
◆　「文章を読み取る力」「書く力」「話す力」の不足からくる粘り強さの不足（応用問題での無解答の多さ）
◆　学習習慣の定着（家庭学習時間の不足）

これらの課題解決に向けて、生徒、保護者、地域住民による授業評価を実施し、授業づくりや単元計画の見直しを行い、日々の授業改善に向けた取組を続けた。

また、公開授業研究会に向けた指導案の検討を学年部ごとに行うことで、日頃の生徒の様子や実態を捉えた授業の実施が可能となった。

さらに、平成２６年度に引き続き、教員、ＰＴＡ役員、地域住民で構成されるコミュニティ・スクール企画推進部会（「学力向上部会」「学校安全部会」「環境美化部会」）で定期的に行われるそれぞれの部会において、子どもたちの学力向上に向けた取組を協議した。

イ　地域住民による授業評価の実施及び授業協議への参加

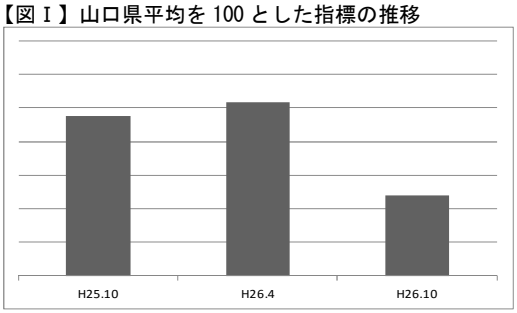
平成２７年度の新たな取組として、年間３回の公開授業研究会の授業協議に学校運営協議会委員が参加した。

協議では「自己主張ができる子どもを育ててほしい」「話し合いの中で何も言わない子どもがいたのが気になる」「子どもの振り返りをもっと取り上げるべきでは」など、子どもたちの姿から率直な意見があり、授業改善の大きな視点を得ることができた。

## ３．取組の成果の把握・検証

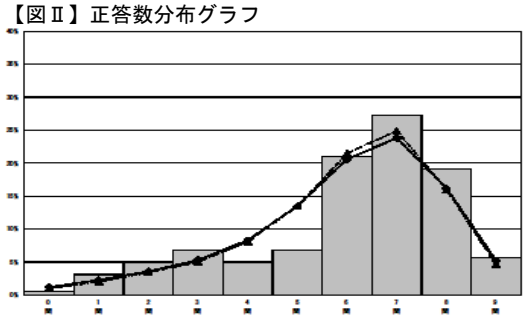
（１）右の図Ⅰは、中学３年生の山口県学力定着状況確認問題の結果について、中学２年生時までの山口県平均を 100 とした指標の推移である。（グラフの目盛りの上限を 100 とする）この指標の推移から分かるように、取組の成果が数値には現れなかった。

【図Ⅰ】山口県平均を 100 とした指標の推移




右の図Ⅱは、平成２７年度全国学力・学習状況調査における国語Ｂの正答数の分布グラフである。

【図Ⅱ】正答数分布グラフ



このグラフでは、柱状グラフが本校生徒の分布を、折れ線グラフが全国及び山口県の分布を表しており、正答数の多い生徒の割合が全国や山口県よりも多いことが分かる。

また、正答数の少ない生徒の割合が全国や山口県と比較して若干多い傾向にはあるが、これまでの結果と比較すると、その割合は確実に少なくなってきた。

その結果、全国や山口県の平均正答率を上回ることができた。

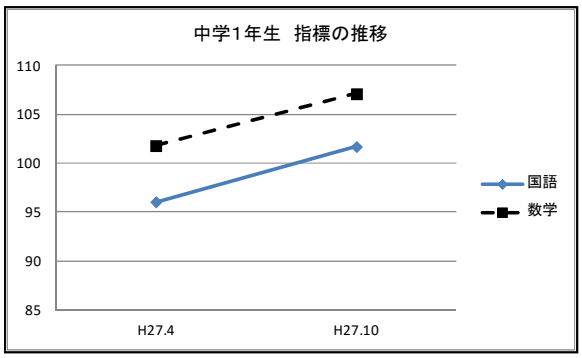
さらに、中学１・２年生の山口県学力定着状況確認問題における指標の推移をグラフにしたものは次のようになった。（中学１年生については中学入学後の変容を示す）

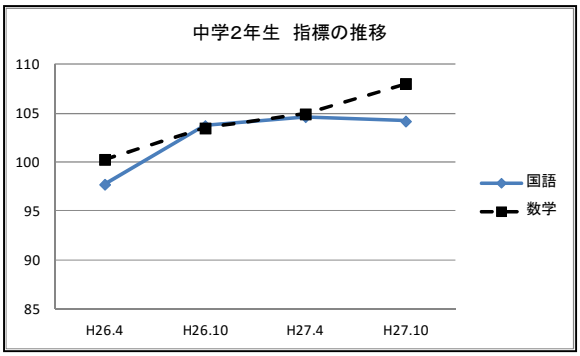
右のグラフから分かるように国語・数学ともに結果が伸び、県平均を上回った。

特に今年度は、年３回の公開授業研究会の協議に学校運営協議会委員の参加や授業評価により、上述の他にも、生徒の学力向上に関する様々な視点からの意見をいただくことができた。

さらに、研修部を中心に生徒の実情に応じた授業を実践するために、教科の枠を超え、学年単位で指導案検討を実施した。

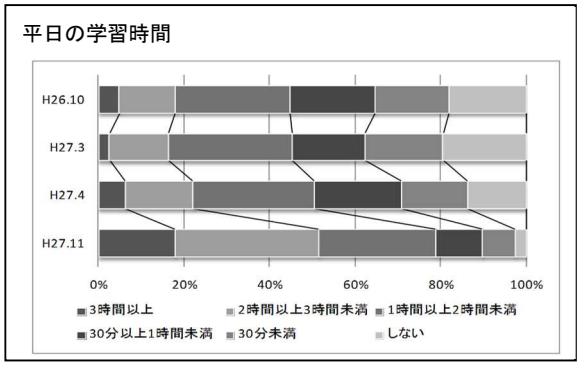
このような授業改善の成果として、生徒の基礎的・基本的な事項の定着を高めることができ、数値的な結果に結び付いたのではないかと考えている。




（２）平日の学習時間の推移についても大きな変容が現れた。

前述のように本中学校区では「メディアコントロールのルールづくり」や保護者や地域の方を対象とした「メディア講演会」を実施してきた。また、生活状況調査等の結果や学校の取組を学校だよりや学年だより、ホームページ等で情報発信することで、規則正しい生活習慣、学習習慣の改善への取組を保護者や地域へ周知してきた。さらに「週末学習プリント」を各学年ごとに生徒の実態に応じて継続的に行ったり、テスト週間には地域の方や保護者の協力の下、「学習会」を実施した。このような取組の成果として、家庭での平日や休日の学習時間が徐々に増加してきていると考えている。

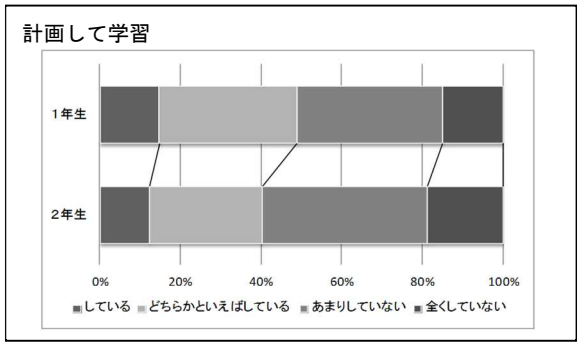



（３）今年度から中学校に学校図書館等支援員が配置され、新刊図書の紹介や教員による読み聞かせも始め、生徒の読書への関心を高める取組を行ってきた。

## ４．今後の課題

（１）本校では、全国学力・学習状況調査生徒質問紙や山口県学力定着状況確認問題質問紙にある「自分で計画を立てて学習している」という項目に対して「している」や「どちらかといえばしている」と肯定的に回答している割合が少ない現状がある。

今後も生徒の状況を把握し、学習意欲を高める授業を実施するとともに、家庭学習を充実させるための「計画を立てた学習」の推奨を継続する必要がある。



（２）全国学力･学習状況調査の正答数分布グラフから、これまで中間層にいた生徒の底上げができたものの、下位層の生徒たちの割合が若干多いことも分かる。中学１・２年生についても同様の結果であり、地域の方からの授業評価や授業協議でいただいた子どもたちの活動への気付きや小中合同研修会や小中乗り入れ授業等の取組によって、さらに情報共有を深め、授業改善に向けた研修を継続して行う必要がある。

（３）今後も学校図書館運営の工夫や朝読書を推進したり、委員会活動をより充実させたりすることで、本校生徒に不足している「文章を読み取る力」「書く力」「話す力」を身に付けさせる必要がある。

（様式３）

「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」
平成２７年度委託事業完了報告書
【協力校】

| 都道府県名（推進地域） | 山口県 | 番号 | ３５ |
|---|---|---|---|

| 協力校名 | 山口県宇部市立厚南中学校 |
|---|---|

## ○　協力校として実施した取組内容

１．協力校における学力に関する課題

校区内の小中学校は、授業研究を通して連携した取組を展開するなど、これまでも学力向上に向けた取組を継続してきた。しかし、全国学力・学習状況調査の結果からは、生徒に十分な学力が付いているとは言えず、課題も多い。特に、読書量が少ないことや、文章の読解力が弱く表現力が乏しいことが課題として挙げられる。また、スマートフォンでのインターネットを利用したＳＮＳやゲーム、動画視聴等の使用時間が大幅に増加していることも、学習時間の不足や生活習慣の乱れにつながっていると思われる。

こうした課題に対し、本校では、学力向上に向け、学力向上プロジェクト委員会を組織し、生徒一人ひとりの動機付けへの工夫と指導法の改善点を検討し、全校体制での取組を推進してきた。また、全教員による研究授業を実施し、毎時間の生徒による授業評価を行うことにより授業力の向上を図っている。さらに、夕学や長期休業中における補充学習で、基礎・基本の定着に向けての取組も行っている。

２．協力校としての取組状況

（１）　コミュニティ・スクールとしての取組

上記の課題に対して、「学校・家庭・地域によるコミュニティ・スクールの機能を活かした学力向上」を研究テーマに、特に保護者や地域住民との連携を図った学力向上への取組について、「学校の組織的な取組」「学習習慣の確立」「地域貢献」の３点に絞って、以下のとおりまとめる。

（２）「学校の組織的な取組」

①　学校運営協議会

平成２６年度、コミュニティ・スクールとして２年目を迎え、学校運営協議会では、学校運営方針の承認・学校関係者による学校評価などを実施する中、地域とともにある学校づくりに向け、地域の方々に学校行事や授業参観の折に来校してもらい、様々な意見を伺った。そして、さらに学校と地域や家庭が連携するため、目に見える形で具体的な取組につなげるため、新たな組織づくりを始めた。

第１回地域連携推進協議会

②　地域連携推進協議会

平成２７年度、前年度から始めた、学校・家庭

・地域の連携推進の組織を「地域連携推進協議会」という名で、正式に立ち上げた。
　全教員参加の組織で、教職員２９名、地域代表１７名、保護者代表３０名で組織し、「学力向上部会・心の教育部会・体力向上部会・地域貢献部会」の４部会で年間３回協議することとした。

③ 小中合同学校運営協議会

年２回、小中合同学校運営協議会を開催し、中学校区内の２小学校とともに、校区内のめざす子ども像を共有し、小中学校で共通した取組となるよう協議した。

④ 検証改善サイクル

学校運営協議会で、その年度の学校・家庭・地域の連携の方針を決め、年度途中で検証し、年度末に活動を振り返り、次年度の方針について協議している。

また、地域連携推進協議会で、学校運営協議会での今年度の方針を受け、より具体的な取組について協議している。

さらに、小中連携推進協議会では、各学校の取組について情報を共有し、協働してできることは実践している。こうして、表１のように、３つの会議を連動させ、検証改善サイクルを推進することで、学校・家庭・地域の連携した取組の充実を図った。

＜平成２７年度のコミュニティ・スクール関係の会議＞
・第１回学校運営協議会　５月２６日（火）
　学校運営基本方針について
○第１回地域連携推進協議会　６月２４日（水）
　４部会での協議
・第２回学校運営協議会　７月３０日（木）
　学校評価アンケートについて
●第１回小中合同学校運営協議会　８月２０日（木）
　各学校の取組の報告、４部会での協議
○第２回地域連携推進協議会　８月２６日（水）
　２学期以降の具体的な取組について
●第２回小中合同学校運営協議会　１月２９日（金）
　各学校の取組の報告と次年度に向けて
○第３回地域連携推進協議会　３月　１日（火）
　１・２学期の取組について検証
・第３回学校運営協議会　３月１４日（月）
　今年度の取組の検証と来年度に向けて

表１

（２）「学習習慣の確立」――基本的生活習慣の確立に向けたメディアコントロールの取組

学力と家庭での生活習慣には強い関連性がある。近年、生徒のインターネットを利用したＳＮＳやゲーム、動画視聴等の使用時間が大幅に増加し、家庭での学習習慣の阻害や睡眠時間の減少等が問題になっている。そこで、生徒が主体的にメディアをコントロールできることが大切であり、昨年度、表２のような様々な取組を行った。まず、１学期と３学期に同じアンケートを実施し、実態を把握した。また、保護者や地域の協力が必要と考え、家庭・地域向けの講演会を開催し、やまぐち総合教育支援センターのネットアドバイザーや薬剤師等、人権や健康面など多様な視点からの講演会を催した。

| | |
|---|---|
| ・保護者地域向け講演会 | ５月　２日（金） |
| ・教育講演会 | ７月　１日（火） |
| ・学校保健委員会で話し合い | ７月２４日（木） |
| ・文化祭での保体部による発表 | １０月２６日（日） |
| ・人権に関する講演会 | １１月１８日（火） |

表２

教育講演会

（３）「地域貢献を柱にした家庭・地域との連携」

本校では、学力向上には、まず自己有用感や達成感を感じる体験を通して、生徒自らが自分自身に対して自信をもつことが重要であると考え、ボランティア活動への参加を積極的に推進している。これまでも校内でのボランティア活動に熱心に取り組む生徒が多く、

＜今年度実施した校外でのボランティア活動＞
・正月行事（どんど焼き）の手伝い
・放課後子ども教室での活動（バドミントン）補助
・夏季休業中の小学校での補習の補助
・校区のふるさとまつりの企画運営への参加
・河川清掃活動への参加

表３

様々な活動を実施してきた。さらに、地域連携推進協議会の協議で、地域との連携の柱を地域貢献とし、地域でのボランティア活動の推進を図ることとなり、前ページの表３で示したように、今年度新たに様々なボランティア活動を展開した。

まつりの準備ボランティア

## ３．取組の成果の把握・検証

メディアコントロールの取組では、講演会後のアンケートでメディアの使用方法が変わったと答えた生徒が約半数に上り、文化祭の発表会に多くの保護者・地域の方の参加があるなど関心の高さが伺えた。こうした学校・家庭・地域が一体となった取組の結果、表４のように、メディア使用時間や就寝時間が改善され、家庭での学習時間を圧迫しているメディアの利用が改善された。

| | 1年 | | 2年 | | 3年 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1学期 | 3学期 | 1学期 | 3学期 | 1学期 | 3学期 |
| 平日一日<br>3時間以上使用 | 21% → | 16% | 21% → | 13% | 22% → | 20% |

| | 1年 | | 2年 | |
|---|---|---|---|---|
| | 1学期 | 3学期 | 1学期 | 3学期 |
| 0時以降に寝る生徒 | 10% → | 8% | 19% → | 16% |

表４

また、今年度組織した、地域連携推進協議会に全教職員が関わり、全校的な取組を展開する基盤ができたことは大きな意義がある。実際、会議の中で、ボランティア活動を通して地域へ貢献する具体的な取組の方向性が決められ、のべ２６０人の生徒が様々なボランティアとして参加した。参加した生徒は、「地域の行事は多くの人の支えで成り立っていることが身をもってわかった」「いろいろな世代の方と関われて、いい経験ができた」「誰かの役に立つことは気持ちのいいことだ」「今日はありがとうと言われてやってよかった」など、多くの人との関わりを通して、自己有用感を感じた経験となったようである。高齢化の進む地域では、中学生が力を発揮する場面が多く、期待も大きい。実際、「中学生のために何かしたい」という声も聞かれ、さらに、学力向上に向けた地域住民による学校支援等が期待される。

## ４．今後の課題

コミュニティ・スクールに指定されて３年、保護者や地域と連携した学校運営を進める中で、今年度、具体的な取組を行うための３者がつながる組織ができ、少しずつではあるが学校が変わり始めた。特に、生徒が参加した地域での様々なボランティア活動で、地域住民の学校を見る見方が変わってきた。さらに、地域でのボランティア活動は、生徒たちにとっても、貴重な体験の場となってきている。こうした取組の成果が、まだ明らかな学力の伸びとして表れてはいないが、生徒は、落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組んでおり、開かれた学校、地域とともにある学校づくりを進めることで、これから少しずつ成果が表れてくることと思われる。

今後も、学校では授業力向上と指導方法の工夫改善をはじめ、生徒の学力向上を図るための様々な取組を地道に継続するとともに、保護者や地域住民を巻き込んだコミュニティ・スクールとしての利点をさらに生かすことが課題である。

そのためにも、地域への貢献を通して、地域の関心が学校に向いている今、学校・家庭・地域がつながりを深め、生徒の学力の向上に向け、具体的な取組を進めていく必要がある。